かかみがはら し りつかわしまちゅうがっこう
各務原市立川島中学校





誰もが輝く　生徒会スローガン

　川島中学校では、5月に体育祭を開催しています。令和元年度の生徒会スローガンは「輝躍」。「誰もが輝き、活躍できる川中」をめざして取り組みました。練習が開始されてから、抜きつ抜かれつの取り組みの積み重ねで、学級と学校全体に一体感が生まれました。誰もが主役、そして誰もが支える人。それが実感できる生徒会活動を行っています。

2020.3
No.462
春風号
第71巻5号
3

わが子のあゆみ

「たるいちょうりつあいはらしょうがっこう」

垂井町立合原小学校

●住　所　〒503-2123
不破郡垂井町栗原1102-1
●TEL　0584-22-1014
●児童数　60名



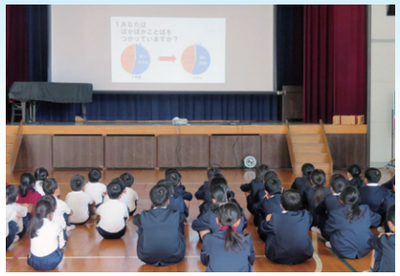
〈地域の自然や風土〉

合原小学校は、岐阜県の南西に位置し、学校のある栗原地区は、自然豊かな栗原山や田園に囲まれ、時々、校庭をきつねが横切るような、自然豊かな学校です。また、地区は十二の「瀬古」から成り立っており、地域が一丸となって取り組む行事や、伝統的な行事も盛んに行われている地域です。

学校の歴史は古く、明治六年に開校し、二〇一三年には創立百五十周年を迎えます。現在PTAや地域の方々と共に、祭典に向けて計画をしているところです。



校舎



ひびきあい集会
「あなたは、ぽかぽかことばをつかっていますか?」について全校で考えました。

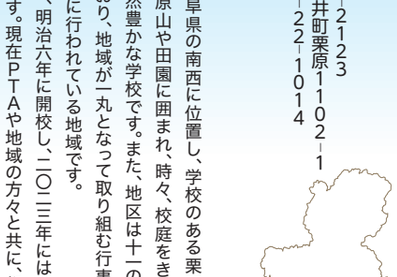
学校の教育目標

よく考える子　はげまし合う子　たくましい子

学校のたからもの①

温かい心を育む　人権教育

合原小学校では、児童が安心して生活できるように「偏見や差別を許さない心と、たくましい実践力をもつ子」に育ってほしいと願い人権教育に取り組んでいます。児童は、合原小人権宣言「ぽかぽかことばがあふれ　なかよくたのしい合原小」を核にし、四つの約束『①いじめをゆるさない ②挨拶をして、励ましの言葉を使う ③さんづけよびをしよう ④ひとりぼっちをつくらない』に取り組んでいます。学期に一度の合原小人権週間の中では、「ひびきあい集会」を行い、学級の取組を発表し、十二月の「ひびきあいの日」に繋げていきます。また、合原小人権宣言を実現するために、日頃の教育活動で、児童同士が互いのよさを見つけ伝える「心の花見つけ」を行っています。日頃お世話になっている地域の方や、保護者の方からも「あったかメッセージ」として、児童にメッセージをいただいています。これらのメッセージは、お昼の放送で流され、それぞれの児童の心の宝物になっています。



メッセージを綴じていき、
自分の心の宝物にしていきます。

全校の「心の花」

「校長先生、ロッカーを整頓できるようになりました!」





児童・保護者・地域の方と一緒に開会式を行います。



職員室前の廊下にも、各学級の
「あたりまえ証」が掲示してあります。

学校のたからもの②

あたりまえ証　あたりまえのことをあたりまえに

「校長先生、学級のみんなが○○できるようになったので、『あたりまえ証』をください」と学級の代表児童が校長室を訪れます。学級で達成したい目標を掲げ、学級の全員が「あたりまえに」できるようになったら、校長から「あたりまえ証」が与えられます。合原小学校では、特別なことではなく、どんな小さなことでも学級の全員が継続して行えるようにし、それが「あたりまえに」できる児童を育てています。自分たちで声をかけ合って、あたりまえにできることが増えてきました。これが、それぞれの学級の宝物です。

学校のたからもの③

地域に支えられる栗原地区大運動会

合原小学校の運動会は、児童だけでなく、地域の方や校区にある認定子ども園の園児、福祉施設に入所してみえる方なども参加されます。そのため、プログラムの種目は三十種目にもなります。テント張りや器具の準備、招集など大変なことはたくさんありますが、保護者や地域の方と児童が一緒に協力しあって運動会を創りあげています。また、「お父さん、お母さん!速い!」「おじいちゃん、おばあちゃん、頑張って!」などと、小学校だけの運動会では聞くことのできない声援を聞くことができます。栗原地区の一員として競技に参加される保護者や家族の姿を、児童たちは誇りに思っています。そして、運動会の中で全校で披露している「栗原踊り」。古くから伝わる伝統ある「栗原踊り」を地域の方から教えていただき、六年生による太鼓やお囃子に合わせて全校児童と地域の方が踊ります。このようにして様々なことを、保護者や地域の方から伝えていただいていることや、地域に支えられていることが合原小学校の宝物です。



全校が披露する
マーチング演奏

［ときしりつときつしょうがっこう］

土岐市立土岐津小学校

●住　所　〒509-5122
　土岐市土岐津町土岐口2000番地の1
●TEL　0572-54-2291
●児童数　619名



〈地域の自然や風土〉

校区は、土岐市の北西部に位置し、土岐川が流れ、古くより流通の拠点となり栄えてきた地域です。また、美濃源氏ゆかりの高山城趾やプレミアムアウトレットなどがあり、伝統と発展が融合する町です。

市内では良質の陶土が採取できるため、土岐津町では陶磁器製造が盛んに行われてきました。その歴史を受け継ぎ、小学校では毎年、地域の方の指導のもと全校児童が陶芸作品を制作しています。また、土岐津町では土岐川のほとりで「あかりの夕べ」というイベントが行われます。児童の作品にも灯がともり暗闇に美しく浮かび上がる景色は、幻想的であると同時に、土岐津町の歴史を感じさせてくれます。



校舎



保健委員会による歯みがき戦隊ミガクンジャー



6年生と1年生のペア歯みがき

学校の教育目標

「よく学び　やりぬく子」

合い言葉『今日が楽しく、明日が待ち遠しい土岐津小学校』

学校のたからもの①

三者で取り組む「歯と口の健康づくり」

自分で自分の健康を守ることができる姿を目指して、歯科保健活動に取り組み今年度で十二年目を迎えました。

学校では保健委員会を中心に、低学年に歯みがきの大切さを伝えたり、歯みがきの仕方を教えたりしています。「歯みがき戦隊ミガクンジャー」に扮した保健委員が低学年の教室へ歯磨きや歯の健康についてお知らせに行きます。ミガクンジャーの訪問に一年生は大喜びで、一生懸命歯を磨きます。歯磨きを教えるというもう一つの活動に、ペア学年で行う歯磨き指導があります。ブラッシングの上達だけでなく、やさしく声をかけ、丁寧に教え合うことで、やさしくされてうれしいという気持ちが生まれ、心の健康教育や道徳教育にもつながっています。

歯と口の健康づくりの取組は学校だけで終わるのではなく、地域ぐるみの取組になるよう、町の公民館で行われる「三世代ふれあい広場」に「歯と口の健康コーナー」として毎年参加します。土岐津小学校の取組を地域に発信し、児童は保健委員を中心にボランティアとしても参加します。事前準備をはじめ、当日は中学生、母親委員と共に、体験コーナーやクイズコーナーを受け持ちます。コーナーには地域からも多数の参加者があり、小中学生、保護者、祖父母が楽しく学びあい、一緒に健康づくりを進めることができます。

このような取組を行ってきた成果として、今年度、岐阜県学校歯科保健優良校実地審査を受け、大規模校県一位を受賞しました。学校と、保護者と、地域が一緒に取り組んできたことが評価され、大変光栄に思っています。

学校のたからもの②

地域の方々から学ぶ「土岐津町の自然や歴史」

三年生から行う「総合的な学習の時間」では、地域を探検する学習を行っています。地域の伝統やそこで暮らし働く「人や物」について、行って見て感じて学ぶ活動を行っています。土岐川の「自然」について学ぶことで、そこに生息する魚や鳥について知ります。また「歴史」について学ぶことで、今は廃線となった駄知線が通っていたことや、その跡が通学路となっているサイクリングロードであることや、大雨の際、駄知線の鉄橋が落ちたこと等を学びます。実際に見学したり、地域の方々から写真などを見せていただきながら学んだりすることで、土岐津町についての理解を深めています。

また、四年生では三年生で学んだことをもとにして作られた、土岐津町についての音楽劇を練習し、公民館祭りや音楽会で発表しています。公民館祭りでは、大変多くの保護者や地域の方々の前で発表をします。地域の方の中には、土岐津町の歴史が歌われることで、懐かしく昔のことを思い返す方もみえます。地域に慕われ、地域へも広がる活動となっています。



三世代ふれあい広場での
歯と口の健康クイズ



地域の方から学ぶ「ふるさと学習」



代表委員による
「にこにこ7の星」キャンペーン



4年生のミュージカルによる土岐津町の紹介



公民館まつりでの
4年生のミュージカル

学校のたからもの③

思いやりの心を広げる「にこにこ7（セブン）」

毎年、代表委員会を中心に「にこにこ7」が学校中に広がる活動を行っています。土岐津小の児童が最も自慢できる活動の一つです。「おはよう」「すごいね」「がんばろう」「いっしょに遊ぼう」「ありがとう」「だいじょうぶ」「ごめんね」という七つの言葉を掲げ、この言葉が多く使われることで相手を思いやる心が広がることを目指して取り組んでいます。

また、七つの言葉を推進する「にこにこ7の星」キャンペーンを行いました。キャンペーン中は各クラスで取り組んだ結果を、児童会が作成した星の掲示板に掲示をしました。キャンペーン後は、児童集会にてその結果を発表しました。全校で取り組んだことが、具体的にどのような結果となったかを児童自ら振り返ることで、「にこにこ7」の良さを一層実感することができました。初めは「にこにこ7」の言葉を意識しないと使えなかった児童も、取組が継続することで自然に使うことができるようになってきました。温かい心が広がり、仲間とともに活動する姿に結びついています。

また「にこにこ7」キャンペーンの取組の延長として、「Ｓｍｉｌｅ Ｆｒｉｄａｙ（スマイル フライデー）」という取組も行いました。合い言葉を「㋐㋑㋒」の頭文字を取って「㋐ともだち」「㋑きもち」「㋒つながる」のキーワードを大切にして取り組みました。毎週金曜日の昼の放送で、各クラスの心温まるエピソードを紹介しています。

このように常時、児童自身が考え取り組むことを繰り返し行うことで、相手を思いやる言葉や姿が多くなってきました。



「スマイル フライデー」の合い言葉

［みずほしりつほづみしょうがっこう］

瑞穂市立穂積小学校

●住　所　〒501-0223 瑞穂市穂積452番地
●TEL　058-327-3091
●児童数　810名



〈地域の自然や風土〉

明治六年穂積村教蒙学校創設以来の、古い歴史と伝統のある学校です。東に清流長良川、西に揖斐川が流れ、他に五六川・中川等多くの河川の流域に位置し、川の恵みを受けて発展した地域です。

本校の校区は、中央を岐阜市と大垣市を繋ぐ国道二十一号線が東西に通り、JR東海道線穂積駅が存在する、交通の便の良い地域にあり、新たな住宅地が広がり人口が増加しています。地域の方々の多くは学校に対して大変協力的であり、活発なPTA活動やボランティア活動に支えられ、安定した教育活動が行われています。



春の校舎風景



夕焼けの校舎



穂積小学校「宝物を引き継ぐ会」



歯の塔



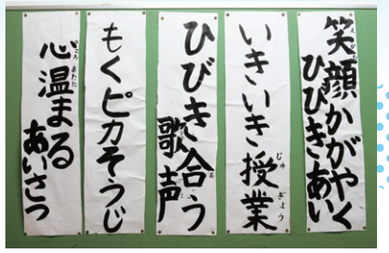
感謝の会でボランティアさんにお礼



運動会で披露したほづみっ子ダンス
（市のキャラクターも一緒）



3周みがきキャラクター
「はみがきりん」



児童玄関掲示「五つのたから」



フッ素塗布で
むし歯予防

学校のたからもの①
ほづみっ子が受け継ぐ五つの宝

毎年二月、穂積小学校では、卒業を控えた六年生が在校生に「穂積小学校の宝物を引き継ぐ会」を行います。引き継いだ宝物は、翌年六年生が中心となって力強く育てていきます。宝物は五つです。

○『心温まるあいさつ』

生活委員会の子どもたちが全校の先頭に立って、挨拶を推進しています。先駆け挨拶で、相手を思いやり大切にする心を育てます。朝の校門や校内教室巡りで、気持ちの良い心温まる挨拶を広めています。

○『もくピカそうじ』

環境美化委員会の子どもたちが、美しい学校にするために、児童集会で掃除の仕方のモデルを紹介し、キャンペーン活動を考えて展開します。掃除を通して、愛校意識が高められています。

○『ひびき合う歌声』

歌声委員会の子どもたちが、全校の歌声をより素敵にしようとこつこつと取組を続けています。姿勢と三本口を共通目標にして、全学級の様子を見に行き、褒め励ましています。おかげで集会の場での全校合唱では、全校児童の心が一つになる素敵な歌声が響きます。

○『いきいき授業』

学習委員会の子どもたちは、各学級の授業で目指す姿を考えることを提案します。自分たちの学級の授業づくりを子どもたちの意志で進めています。学級の入り口に宣言を掲示し、やり抜きます。

○笑顔かがやくひびきあい

六年生が中心になって行う縦割り活動です。年間計画のもと、PDCAで楽しい時間を過ごせるよう進めています。朝活動の時間の「ひびきあい活動」、十二月には「ひびきあい祭り」、二月には「六年生を送る会」の行事を通して、異学年間の絆を深め育てています。

伝統的に五つの宝を上級生から下級生へとつなぎながら、子どもたちの発見力、企画力、運営力を育成しています。



各教室入口に掲示された
いきいき授業のプレート

学校の教育目標

かしこくて　あたたかくて　たくましい子

学校のたからもの②
四十年以上続く歯磨き指導

校地内に歯の塔があります。ここで毎年六月、納歯式を行い、抜けた乳歯を塔の中に納めます。新しく生えた永久歯を大切にするという気持ちを改めてもつ伝統的な式です。

本校は、給食後の歯磨きとフッ化物洗口の取組に、長い歴史があります。毎日、給食後の校内には、歯みがきのテーマソングが流れ、音楽に合わせて各学級で歯磨きが始まります。健康委員会の子どもたちが「三周みがき」の啓発活動を行い、ていねいに自分の歯を磨いています。歯磨きの後は、ぶくぶくうがい（フッ化物洗口）をします。

学校では、自分の歯と口に関心を持つために、四月には、歯垢染め出し、七月にはカリオスタット検査を行います。校区の朝日大学歯学部の協力をいただき、歯科検診や歯磨き指導、フッ素塗布も行っています。おかげでむし歯の減少に成果が上がっています。PTAの協力も得て、家庭への啓蒙活動もあり、学校と家庭の連携も大きな力となっています。

学校のたからもの③
令和元年誕生「ほづみっ子ダンス」

令和元年、運動会のプログラムに「ほづみっ子ダンス」が登場しました。本校卒業生のストリートダンサーKARINさんの指導・協力を得て完成したものです。ダンスは、低学年・中学年・高学年の発達段階に合わせた振り付けで構成され、素早い動きや隊形移動、決めのポーズも直接指導を受けました。

子どもたちは、教室の電子黒板を活用して、朝のスポーツタイムや休み時間に動きやステップを熱心に練習しました。また、学校のホームページにも動画を組み込み、家庭でも練習を重ねました。

運動会当日は、運動場満員の観客の前で、切れの良いダンスを披露し、新しいほづみっ子の宝物を、穂積小の歴史に残しました。

学校のたからもの④
地域の支え

穂積小学校の子どもたちは、地域の多くの方々に見守られ、支えられ育てられています。校区は交通が便利な反面、子どもたちは交通事故の危険にさらされています。地域の安全ボランティアの方々には、一日も欠かさず登校を見守っていただき、PTAの方々には、安全パトロールを通して下校や下校後の様子を見守っていただいています。

また、朝の読書の時間に、読み聞かせボランティアの方々に来校していただき、学年に合わせた本の読み聞かせを行っています。落ち着いた一日のスタートができると共に、読書の意欲向上にも繋がっています。

さらに、学校ボランティアの方には、校地内清掃や学年菜園や花壇の世話を教えていただいています。季節ごとの美しい花を楽しみ、野菜の収穫体験ができることはとても幸せなことです。

毎年十二月には、子どもたちの手で、「感謝の会」を計画し、お礼の言葉や感謝状、全校合唱等で感謝の気持ちを伝えています。

［ぎふしりつあいかわひがしちゅうがっこう］

岐阜市立藍川東中学校

●住　所　〒501-3122 岐阜市大洞紅葉が丘6丁目22番地3
●TEL　058-241-1311
●生徒数　216名



〈地域の自然や風土〉

古い歴史を持つ地に昭和四十年代にマンモス団地が造成された地域で、全国各地から移り住んでこられた方々が多く、高齢化率が年々高まっています。一方で、スーパーシニアと呼ばれる高齢の方々は、次世代を担う子どもたちに「社会を生き抜く力を付けてほしい」「ふるさとに愛着をもってほしい」との強い願いをもち、学校の教育活動に非常に協力的で、スーパーシニアと中学生が協働し、地域を盛り上げる工夫が多く位置付けられています。

地域には、国指定天然記念物「中将姫誓願桜」（ヤマザクラの変種）や、市天然記念物のシデコブシ群落、コバノミツバツツジ群落を有し、校区を流れる山田川には蛍が舞う、自然豊かな土地にある学校です。



校舎とグラウンドに作られた
高橋尚子ランニングコース



国指定天然記念物「中将姫誓願桜」
樹齢1200年程度のヤマザクラの変種。
20～30分の花弁を持ち、平安時代からの伝説も残る。
同種の桜は確認されていない。

藍

学校の教育目標

「自立・貢献」目標をもって挑む！人のために動く！

学校のたからもの①
学校の教育目標具現の場「ボランティア活動」

高橋尚子さんが本校の卒業生であるため、「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」には、初回から多くの生徒がボランティアとして参加してきました。この大会を皮切りに、数多くのボランティア活動に大変多くの生徒が取り組んでいます。特に、夏祭りの準備や地域を走るコミュニティバス「みどりっこバス」のヘルパーボランティア等、地域からの依頼が多く、地域の方々の中学生に対する期待の大きさを感じます。





高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンの
給水ボランティア。
第1回から毎年多くの生徒が参加。

ボランティア活動は、生徒にとって、学校の教育目標具現の場、地域貢献の場であるとともに、地域の方々から直接「ありがとう」の言葉をもらい、自己有用感を感じられる貴重な場となっています。

また、校内では、生徒会活動の一環として毎週リサイクル活動に取り組み、その収益金を寄付という形で社会貢献に役立てることを目指しています。

学校のたからもの②
地域との連携・協働

ボランティアという形で地域の方々のために中学生が活動する一方で、中学生の学習に、地域の方々、特にスーパーシニアの方々に多くの力を貸していただいています。総合的な学習の時間や地域ふれあい活動の講師としてお越しの方々からは、工夫を凝らした体験学習を提供いただき、生徒にとって大変実り多い学習ができています。一方、講師の方々からは、授業終了後、「中学生にしては素直かつ積極的で、好感を持ちました」「生徒の皆さんが真剣に取り組んでいただき、楽しい時間を過ごせました」といった感想が寄せられ、地域



地域のスーパーシニアを講師に迎えて、
権現山登山及び願成寺・長山城跡を見学。



山田川に鯉のぼりを掲揚。
ボランティア活動を通し、地域の方々から郷土を
愛する心を受け継いでいる。



「中学生と語る会」
地域の各種団体代表者と中学生が
統一テーマについて意見交流。



「山田川清掃」
小中学校と地域の方々との協働の場。



コミュニティバス「みどりっこバス」の
ヘルパーボランティア

との連携が双方にとって良い効果をあげていることがわかります。

また、小中学校と地域の方々との協働の場として、山田川清掃が位置付けられており、絶滅した蛍をよみがえらせようと始まったこの活動は、今年で三十五年になります。青少年育成市民会議やPTA役員の方々をはじめ、地域の方々が事前に周囲の草刈りや危険なごみの除去を行っていただけるため、当日は、中学二年生が小学三年生と手をつないで川に入り、安全に活動ができています。そして、その活動の様子を、地域の方々がにこやかに見守っておられます。

さらに、芥見東と芥見南のそれぞれの自治会連合会、公民館、青少年育成市民会議の方々と中学生が統一のテーマについて話し合い、交流を深める場として、「中学生と語る会」が三十八年間続くなど、地域との協働が積極的に行われています。

学校のたからもの③
「藍東４本柱」

つなぐ挨拶
磨く掃除
心を　広げる合唱
耕す授業

学校生活の中で、自立に向かう力を育てる場として生徒会活動を大切にしており、中でも「藍東４本柱」として、大切にしたい活動「挨拶・掃除・合唱・授業」が引き継がれています。今年度も、母校を自分たちの誇りにするために、生徒会執行部が強い願いを持ち、その願いを各委員や各学級の委員会班と共有し、キャンペーン活動等、様々な活動が展開されています。活動を通して、学級全体の成長を目の当たりにし喜びを感じた委員長は、「さらに各委員の動きや全校の状況を把握し、願いを伝えられるようになりたい」と決意を新たにしていました。

学校の教育目標にある「目標をもって挑む！人のために動く！」場面が、今後も学校中に広がっていくことを願っています。



生徒会キャンペーン活動の足跡



「文化交流会」
合唱を通して各クラスや学年が築いてきた文化を交流。

大垣市立多良小学校　PTA会長
竹ノ内 秀行

わが家の宝物

家にはちょっと反抗期？な二人の息子がいます。この二人が我が家の宝物です。

我が家では、国語で一〇〇点が取れなくても「おはよう・こんにちは・ありがとう・ごめんなさい」がちゃんと言えればOK！算数ができなくても、理科が苦手でも思いやりをもって毎日一所懸命生きていけば、それでOK！と子どもたちと話しています。

家には九十九歳になる曾祖母がいます。曾祖母は耳が遠いので近くでゆっくりと大きな声で話し、時にはジェスチャーも交えて会話しています。

そんな子どもたちの姿を見ていると、私達も改めさせられます。

時には、仕事から疲れてイライラしながら帰ってきた私に「おかえり!!」と言って私を疲れやイライラから解放してくれる笑顔!!

私達の子どもたちですが、私達の所有物ではないという事を信念に、一緒に私達も成長させてくれる息子たちが、我が家の宝です。



リレーエッセイ 10

岐阜県PTA連合会 副会長
日下部 勝



PTAは必要!?

冒頭から波紋を呼びそうな展開ですが、結論を先に述べますと、絶対×10くらいに必要な活動母体と信じております。私自身、地元で数々の武勇伝を持つ伝説の教師から「教育とは、いかにシャバで間に合う大人に子どもたちを育てる事だ」まるで任侠映画のセリフの様な言葉にそのかされ？てから、気が付けば十年以上もPTAの世界に身を置いております。

世間では「お人好しで、役好きで、断れない人」がPTAの役を受けるといわれているそうですが、経験値から言わせて頂くなら「子ども好きで、多少酒席が好きで、断らない人」が役を受ける方の大半と考えます。時には意見の対立もありますが、すべては子どもたちのために。不必要な禍根も残らないのがPTAかも知れません。

特筆すべきは、令和元年度岐阜県PTA連合会の目標でもある「心身ともに健やかで活力ある子どもの育成」のために、各々が、地域性や学校の特色を活かしながらも、しっかりと時流に沿った活動を、地に足をしっかりつけて行なう所にあると思います。

この紙面をお借りして、特に私が紹介させて頂きたいのは、子どもたちが、独り暮らしの高齢者宅や高齢者向け施設等を訪問する活動を、PTAが全面支援している学校が県内に拡がりつつある事です。

命の問題や現代社会が抱える問題を、子どもたちがしっかりと捉える大変意義のある重要な活動の一つではないでしょうか。

冒頭に戻ります。子どもと地域社会を結ぶ架け橋として、やはり、PTAは必要な存在であります。

今宵も、県内のあちらこちらで、子ども好きで断らないおじさん・おばさん達が、多少のアルコールに頬を染めながらも、子どもたちの未来を熱く語っている光景が、目に浮かびます。

次回は…　中津川市立川上小学校　吉村 英晃さん

わが子のあゆみ
2020.3 No.462 春風号

もくじ

1 表紙　各務原市立川島中学校
1 学校のたからもの　垂井町立合原小学校／土岐市立土岐津小学校／瑞穂市立穂積小学校／岐阜市立藍川東中学校
9 わが家の宝物　竹ノ内 秀行
10 リレーエッセイ⑩　日下部 勝
11 特集「被災地に学ぶ」交流活動2019　田中 来樹・佐藤 颯太・天野 創太／新井 来瞳・萩 優奈・寺田 伊吹／辻 大毅・中埜 すみれ
17 家庭教育応援団！㊵　岐阜県環境生活部環境生活政策課「多様性尊重の教育⑮」
19 みんな、いっしょに　安田 和夫
21 保健室ノート　後藤 明美
23 私の先生㊵　児玉 麻美
25 話そう！語ろう！わが家の約束　三品 亜希子・伊藤 京子
26 先生！ありがとう！保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ
27 子育て半生記　高見 昌彦
29 楽しい読み聞かせ⑨　中津川市立阿木小学校PTA
31 親の背中④　丸田 茂雄・髙森 幹啓
33 私が出会った1冊の本【続45】　杉山 裕美・河口 豊
35 子の思い　田中 樹・梅村 陸翔・大野 茜梨
35 親の願い　名倉 和裕・大作 拓也
35 教育の窓　中島 直子・石野 陽子
41 親子ではてな
42 お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会
43 ふるさとの伝承　多治見市立笠原小学校
45 きらり！キッズ！　岐阜市立徹明さくら小学校
47 夢中！熱中！我らが部活　羽島市立羽島中学校
49 私たちのPTA　大垣市立時小学校PTA

機関誌「わが子のあゆみ」
令和元年度　春風号
第71巻5号　通巻462号

発行／令和2年3月1日　岐阜県PTA連合会
〒500-8816　岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257
FAX／058(262)3259
Eメール／info@g-pta.com
ホームページ／http://www.g-pta.com
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会
「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社

特集 「被災地に学ぶ」交流活動 2019

東日本大震災から８年５ヵ月を経た令和元年８月１日～３日、岐阜県ＰＴＡ連合会の「被災地に学ぶ」交流団（中学生８名、県ＰＴＡ会長ほか引率３名）は、被災地宮城県東松島市立矢本第一中学校、防災エデュテインメント施設キボッチャ等を訪ね、研修・見学をしました。

当時、まだ小学校入学前だった中学生は、各々体験したことを学校や地域に広めて、防災活動に生かしました。これは８名の体験記です。

地域とともに守る 僕たちのまち

羽島市立羽島中学校 三年
前期生徒会長　田中 来樹

僕は、「被災地に学ぶ」交流活動に参加しました。この活動で、被災地の現状を見たり、震災で家族を亡くした方の話を聞いたりしました。震災から八年が経ったけれど、まだ再建されていない建物がたくさんありました。また、家族を亡くした悲しみは一生消えることがありません。震災は何もかもを奪ってしまうことを実感させられました。そうならないために、今現在、被災地の地域全体で避難の仕方や必要な備えについて学ぶなど、災害対策をしていることを知りました。

東松島市立矢本第一中学校との交流では、現地の中学生とマンホールトイレの設置体験をしました。この体験では、人々の健康や衛生的な生活を守るために備えることの重要性を学ぶことができました。また、この学校の校長先生がおっしゃった「あいさつも防災」という言葉が心に残りました。挨拶をすることで会話の機会が増え、助け合いの心が生まれます。挨拶は毎日の生活を豊かにするだけではなく、防災にもつながるということは、僕にとって大きな気付きでした。

今回の体験を広めるために、市のＰＴＡの集会や学校の全校集会の場で、プレゼンテーションを行いました。多くの人に発信する中で、最も強く訴えたことは、「地域とのつながりを大切にすること」です。なぜなら、災害時、一人の力ではどうすることもできないからです。挨拶で地域との交流を深めたり、地域で行われる防災活動に参加したりしていくことが大切です。また、防災活動に限らず、大人も子どもも関係なく、積極的に地域の行事に参加することが必要だと考えます。

今回の体験を通して、テレビだけでは伝わらない災害の恐ろしさを肌で感じました。もしまた災害が起きたら…と怖くなりました。だからこそ、これからは地域とのつながりや助け合いを、もっと日頃から大切にしたいです。その一つとして、生徒会役員を中心に毎朝の挨拶活動を行いました。また、災害に強いまちづくりも必要だと感じています。例えば、僕の住んでいる羽島市は、液状化現象が心配されているそうです。僕自身、災害に強いまちづくりに貢献していくために、今後は、防災に関わる知識をさらに身に付けていきたいと考えています。僕にできる備えや、地域とのつながりづくりとして、機会があるたびに今回の体験で感じたことを伝えたり、地域行事のボランティア活動に進んで参加したりすることを心がけて、実践していきます。

『学び』を活かし、『命』を守る

大垣市立江並中学校 三年
前期生徒会長　佐藤 颯太

テレビの中の映像でしか見たことのなかった被災地を実際に訪問すると、震災から約八年たった今も復興が行き届いておらず、未だ仮設住宅が並ぶ地域や震災が起きた当時から時が止まってしまっているようなところもありました。実際に見る、触れる、被災した方の話を聴くことを通して、動画や文章だけでは伝わらない被害の大きさや被災地の現状を肌で感じることができました。

この交流活動を通して、強く心に刻まれていることが二つあります。

一つ目は石巻での『未来サポート』です。語り部の佐藤麻紀さんは涙ながらに当時の心境や状況を語ってくださいました。話を聴きながら、人々が必死に生きようとする姿や声を掛け合い助け合う姿など、様々なことが想像できました。また、人の命をいとも簡単に奪ってしまう自然災害の恐ろしさも改めて知りました。麻紀さんの講話は、今でも鮮明に覚えており、一生忘れたくない、忘れられないほど強く胸に響きました。

二つ目は、『旧大川小学校の訪問』です。東日本大震災の痛ましい津波被害の跡がそのまま残されていて、自分の身長の何倍もある大きな波が襲い掛かってきたのかと考えると、大きな恐怖感とともに、どうしようもないあせり、不安を感じました。私たちが訪問したとき、当時、大川小学校に通っていた哲也さんと偶然お会いし、自分の命を守るため、必死で山にしがみつき登っていったこと、中学生ながら大勢の大人の前で校舎の保存を申し出たことなど、多くの体験を聞かせていただきました。哲也さんから「自分の命の大切さ、尊さ」、「自分から動き出し、周りに流されず、あきらめない強い心」の大切さを学びました。これらのことに、僕は深く感動し、「哲也さんのような心のもち方をしたい。そんな自分になりたい」と強く思っています。

自然災害はいつ、どこで起こるかはわかりません。私は、この体験を通して、自分や仲間の命の重み、尊さを知り、共に命を守りぬくことが大切だと感じました。そこで、全校集会で『命』について話し合い、『仲間どうしで命を守ること』の大切さを全校で考える時間をもつことができました。このように日頃から災害や緊急事態を意識した生活を送るために支え合い、協力できる温かい仲間関係をつくっていきたいと考えています。交流事業に参加させていただき、ありがとうございました。

被災地を訪問して学んだこと

岐阜市立三輪中学校 三年
生徒会副会長　天野 創太

僕は、八月一日から三日間、東日本大震災の被災地を訪問し、今も残る被害の跡を見たり、被災された方と交流したりする機会をいただきました。現地を訪れたからこそ分かったこと・学べたことは多くありましたが、ここでは二つについて述べたいと思います。

一つ目は、「復興の大変さ・難しさ」です。東日本大震災が起きてからもうすぐ九年になります。訪問する前、僕はもう復興はかなり進んでいると思っていました。しかし、それは思い込みにすぎませんでした。

写真は、僕がバスの中から撮った仮設住宅です。この施設を見た時、震災から九年が経つのにまだ仮設住宅がある現状に驚き、自分の思い込みに気づきました。そして、今もそこに暮らしている方々の思いを想像し、悲しくなりました。宮城県の矢本第一中学校の生徒会の方との交流では、生徒の方々が復興の取り組みについて説明してくれました。その中で、当時の中学生も復興ボランティアとして参加したと聞きました。中学生が手伝うほど復興の取り組みが厳しかったこと、それでもまだ復興が完全には成し遂げられていないことに、改めて心が痛くな



そばにある「何か」

瑞穂市立巣南中学校 三年
前期生徒会執行委員　新井 来瞳

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こったその日。誰もが忘れられない。そして、忘れてはならない一日となりました。私は、その頃まだ幼く、テレビに流れている映像を見て驚いている母親を見て、「何にそんなに驚いているのだろう」と思っただけで、津波の映像が何か分かっていませんでした。中学に入り、少しずつ現状を知るなかで、私も何かできることはないのか…そう思うようになりました。そんな時、「東日本大震災被災地から学ぶ」という活動があることを知り、参加することを決めました。

私は、この活動を通し、多くのことを学び、体感しました。特に印象に残っているのが、旧大川小学校に行ったことです。初めに、目に入ってきたのは、崩れ、柱だけでなった校舎で

の思いをじかに聞いたり、災害の恐ろしさを肌で感じたりすることができたからだと思っています。

多くの体験の中でも、矢本第一中学校の生徒の皆さんとの交流と、大川小学校跡地の視察が強く印象に残っています。矢本第一中の皆さんとの交流では、いっしょにマンホールトイレを設置したり、震災が起きた当時の出来事などについて、意見交流をしたりしました。ともに交流することで、同じ中学三年生なのに「防災」に対する意識が、自分とは大きく違うということを実感しました。私たちも学校での避難訓練は真剣にやっていると思っていました。しかし、マンホールトイレの設置などに黙々と作業する矢本第一中の皆さんの姿を目の当たりにしたとき、『真剣に取り組む』ということの、本当の意味を私は理解しました。

また、今もなおあの日のことを伝えている大川小学校の校舎が、心にも目にも焼き付いて残っています。多くの生徒、先生がなくなった事実を目の当たりにした時、もう少し早く逃げていたら、あの時津波が起きることを予想できていたら、という後悔のような複雑な思いが溢れました。でも過去は変えられません。だからこそ、私達が未来を災害から守るための行動をとらなければならないと改めて覚悟することができました。

私はこの研修での体験を、私の学校である朝日中学校の全校生徒に伝えたいと思いました。また、高山市内の東山中学校の皆さんにも発表させていただく機会を得ました。この災害が今も続いている事実や命に対する考えを変えたこの経験、実際に被災地に行って感じることのできた大切な出会いなど、多くの仲間が真剣に私の話を聴いたり、写真を見たりしてくれました。私には学んできたことをもっと多くの人に伝える義務があると思っています。これからも機会をみつけ、その義務を果たしていきたいと思っています。今回、貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、願う未来へ少しずつ近づいていくことを願っています。

被災地の現場から学んだ、私たちが生きる上で大切にしたいこと

岐阜市立陽南中学校 三年　前期生徒会長　辻 大毅

今回の「被災地に学ぶ」交流活動を通して、現地だからこそ感じられる雰囲気や、現地の方の気持ちや現状など、多くのことを学ぶことができました。その中で、特に印象深く残っていることは、二つのことです。

一つ目に3・11みらいサポートでの語り部さんの話です。地震が起きて避難するときの話、病院で入院している家族を探しに行ったが亡くなってしまっていたという話など、自分たちが今まで体験したことのない話ばかりでした。特に心に残っているのが、「こういう話は私だけが特別でなくて、その辺にゴロゴロ転がっているのだよ」という言葉です。岐阜に住んでいると、震災の時の話を実際に聞ける機会はありません。現地の人は今でも震災の時の経験をもって生活してみえます。改めて岐阜と現地とでの防災などの意識には大きな差があると感じました。

二つ目に、旧大川小学校の視察です。ここではまず、その場の雰囲気に圧倒されました。

この場所で当時どうやって生活していたのか、津波が来たとき何を思ったのかなど、いろいろなことが頭をよぎり、「自然は美しいだけでなく、ときに自然の脅威の前に我々は何もできないものになる」と考えさせられました。



岐阜に住んでいると、八年前の東日本大震災が起こったときに比べて、震災のことを話題にしたり、私たちの身近にあるものだという危機感が薄れてきたりしています。しかし、今回の学習を通して、『いつ来るかわからない自然の脅威を、身近に感じないほど怖いことはない』と痛感しました。

今回学んだことを無駄にしたくないと思い、今回の交流活動で学んだことを、全校の前で発表しました。私が質問したことに対して、真剣に話し合う全校生徒の姿を目の当たりにして、このような姿が広がっていけば、少しずつ防災への意識は高まってくるのではないかと思いました。一回の発表で終わるのではなく、「自分は現地を実際に見て、こんなことを感じた」と、今回学んだ知識や考えを周りに発信していきたいです。そして、少しでもその輪が広がっていき、防災への意識を高めていけるようにしたいと思いました。

〝誰か〟のために生きる人に

岐阜市立藍川東中学校 三年　生徒会議員　中埜 すみれ

二〇一一年三月十一日の東日本大震災。当時、五歳だった私は、テレビで見た津波の映像に大きなショックを受け、何か被災者の方々の役に立てないかとずっと思っていたところ、今回「被災地に学ぶ」交流活動に参加することができました。

交流活動では、ＫＩＢＯＴＣＨＡなど様々な施設を訪れ、多くの方々からお話を伺うことができました。特に旧大川小学校跡地は、被害が特に大きかった場所で、目の当たりにしたとき、大きな衝撃を受けました。町は、八年前に大きな被害を受けたことが分からないくらい明るく活気に溢れていましたが、ここだけは当時のまま、災害の大きさを物語っていました。

私は、この交流活動を通して多くの大切なことを学びました。

一つ目は、東日本大震災を教訓にすることです。旧大川小学校跡地で偶然お会いした語り部の方々は、震災をただの過去として終わらせるのではなく、二度と起こらないよう教訓にしてほしいと話されました。現段階で自然災害をなくすことはできません。しかし、過去を教訓にして被害を少なくすることは、私たちの努力によって実現できることだと思います。

二つ目は、自分で判断する力を身に付けることです。私たちは防災訓練で、地震が来たら机の下に逃げるという同じ行動を、繰り返し練習をしています。しかし、よく考えてみると、机の下に逃げることで机に閉じ込められたり、横から割れた窓ガラスが飛んできたりするかもしれません。矢本第一中学校のみなさんは、マニュアル通りに行動することが全てではなく、辛い経験を糧にして、状況に応じ自分で判断して行動する力を身に付けていました。

三つ目は、自分の命を必ず守ることです。震災で家族を亡くされた語り部の方は、「自分が家族や友人などの大切な人を失うと動けなくなるのと同じで、自分がいなくなると周りの人が動けなくなるから、絶対に死んではいけないと胸に刻んで生きてほしい」と言われました。

そして、初対面の私たちに、「あなたたちには、こんな思いをしてほしくない」「こんな辛い経験をする必要はない」と、辛さをこらえ、自分の過去を話してくださいました。損得を抜きで、〝誰か〟のために生きようとする語り部の方の生き方は、私にとって大きな衝撃でした。

この交流活動を通じて、私は将来、語り部の方々のように、「強くて優しい大人になりたい」、自分が育った土地で、「〝誰か〟のために生きる人になりたい」と強く決意することができました。



家庭教育応援団！ ～みんなで家庭教育～

〈岐阜県青少年健全育成県民大会 家庭教育の実践発表〉～

県内にはすてきな家庭教育を実践されている方がたくさんいらっしゃいます。また、地域社会全体で家庭教育を応援する環境づくりも進んでいます。

令和元年十一月十七日、瑞浪総合文化センターにおいて「令和元年度青少年健全育成県民大会」が開催されました。この大会の中で、東濃地区にお住まいの三つのご家族に家庭教育の様子を発表していただきました。



家族のあたたかいコミュニケーション
中津川市　徳武様

徳武さんご一家は、父、母、祖父、祖母、そして、兄、弟、妹という七人家族です。

三人のお子さんはとっても仲良し、いつも元気で、頑張り屋です。



とにかく『ほめる』

そんなお子さんたちの子育てについて、お父さん、お母さんが大事にしていることはとにかく「ほめる」ことだそうです。子どもたちが勉強や生活について目標を立てて取り組んだ時には、勉強をやる時間が決められたのであれば「ほめる」、決められた時間に始められたら「ほめる」、そしてもちろん、やりきった時に「ほめる」そうです。

このように発表されたお母さんに、司会が『ほめるって一言で言っても、いつ、何を、どんな風にほめればよいのか戸惑われたり、『ほめるのは難しい』と言われたりする方もみえますよね」と聞くと、次のように答えられました。

「私も初めはそう思っていました。でも今では、子どもってよく見ているとほめることがたくさんあるなぁと思うようになりました。どんな小さなことでも、子どものすてきな姿をみつけたら、すかさず「お母さん、うれしかったな」みたいに、自分の思いを伝えるんです。電気消してくれてありがとう、弟の勉強を見てくれてありがとう…そして、その時、お兄ちゃんが弟の勉強を上手にほめるので、それがうれしくてまたお兄ちゃんをほめるんです」


夕食作りのお手伝い


「わたしもお手伝いする！」

さらに、祖父母と同居されていることについて言葉を続けられました。

「おじいちゃん、おばあちゃんがいるというのはいいですよ。ほめてくれる人が多くなるので。親が気づかないことに気づいてほめてもらえるんです」

親として、まだ十歳

ほめること以外にも、「叱るときには、理由をはっきりさせる」「感情的に怒ってしまったら謝る」「スキンシップを大事にする」「子どもとの約束をやぶらない」等、子どもとのあたたかいコミュニケーションを大切にして、日々、すてきな家庭教育を実践されています。しかし、そんな徳武さんも、悩んだり、迷ったりしたことがたくさんあったそうです。お母さんは、苦労した時のことを思い出しながらこう言われました。

「子育てについては、今まで、多くの方に支えられ、多くのことを教えていただきました。今年、お兄ちゃんが十歳になりますから、私たちも親としてまだ十歳です。子どもと一緒に成長させてもらっています」


弟と妹に本を読んであげます

家庭・学校・地域が一緒に取り組む
恵那市　川上様・井出様

家庭と学校が一緒に生活習慣づくり

恵那市立上矢作小学校では「自ら取り組む健康づくり」として、「歯と口の健康づくり」を軸とした子どもたちの生活習慣づくりに取り組んでいます。歯磨きのような生活習慣については学校だけで成果があがるものではないという考えから、PTA家庭教育委員会が中心となって『歯磨きがんばりカード』を作成・配布し、家でも取り組むようにしています。この取組に対するお子さんの様子について、家庭教育委員長の川上さんは次のように言われました。

「学校で取り組んでいるだけあって、普段は家でも進んで歯磨きをします。でも、夏休みみたいに生活リズムが違う時には、声をかけないとできない時もありますね。そんな時でも、子どもを見ると、磨き方は上手なんです。身についているんですね。習慣づくりは大切なんだなと思いました」


学校で学んだ磨き方「ぴたこちょ磨き」

家庭・学校・地域が一緒に子どもを育てる

地域に伝わる上矢作小太鼓。毎年四月になると春祭りにむけて、小中学生から高校生、保護者、祖父母世代まで、地域みんなで練習をします。この活動に対するお子さんの様子について、PTA副会長の井出さんは次のように話されました。

「子どもたちは『早く笛、太鼓をやりたい！』とテンションが上がっていて、学校から帰ってくると、宿題をさっとすませて、時間になるとお父さんと一緒に地域の練習にでかけます。家でも進んで練習するんですよ」

学校でも、ふるさと教育として総合的な学習の時間に地域の保存会の皆さんが太鼓を教えに来てくださるそうです。まさに、家庭・学校・地域が一緒になって子どもたちを育てています。


家でも進んで練習をします

家庭・学校・地域は切っても切れない

上矢作小学校では、地域の方の指導のもとに五・六年生の子どもたちがお米を作ります。そのお米を使って、自分たちでおにぎりを握って食べる「おにぎりの日」という活動に取り組んでいます。川上さんのお子さんは「おにぎりの日」にむけて家でおにぎりの握り方の練習をしたそうです。

「お母さん、どうやったら三角のおにぎりができるの？」というお子さんの言葉に、「こうやるの」と手本を見せるお母さん。また、お父さんが、土曜日や日曜日に お弁当をもって仕事に行く時に、お母さんが「お父さんのお弁当におにぎり三個作って」と言うと、お子さんが喜んでにぎってくれたこともあったそうです。学校での取組をきっかけに、あったかい親子のコミュニケーションが生まれました。

上矢作での子育てについて話してくださった川上さんは最後にこう言われました。

「家庭・学校・地域は切っても切れないものだと思っています」


お父さんのお弁当！

県のホームページでは、家庭教育に関する情報を発信中！ぜひご覧ください！
岐阜県　家庭教育学級　検索

お気軽にご相談ください!
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。社会教育担当または家庭教育推進専門職までご連絡ください。

環境生活政策課　☎058-272-8752（直通）
西濃県事務所　☎0584-73-1111（内線219）
中濃県事務所　☎0575-33-4011（内線210）
可茂県事務所　☎0574-25-3111（内線208）
恵那県事務所　☎0573-26-1111（内線209）
飛騨県事務所　☎0577-33-1111（内線235）

すてきな高校生の姿にふれて

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修　教授　安田 和夫

高等学校の人権教育講演会に招かれて

大垣市内のある高等学校の人権教育講演会に招かれて、二時間弱の講演をしてきました。高校生と向かい合うのは一年に数回のことですが、いつも楽しみにしています。さて、この学校が、私を招いてくださったことには、理由がありました。現在、どの高等学校にも、発達障がいのあると思われる生徒が在籍しています。この高等学校も例外ではありません。そうした生徒と周囲の生徒が、どう理解し合ったり、関わり合ったりすることが望ましいのか、生徒も先生も保護者も学ぶことができればというお話でした。

実は、その気がかりな生徒の一人は、小学生時代から相談にあたってきたAさんだろうということが容易に想像できました。Aさんは、学習に関しては心配ないものの、人間関係を築くことが苦手で、不安が高まることで、実力を発揮できないこともあったことから、小中学校時代には、自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍している期間がありました。小学校から中学校へ進学するときも、どのような教育の場が一番安心できるのか、ご本人やお母さん、担任（特別支援教育コーディネーター）の先生に、大学の研究室までおいでいただき、じっくり相談したこともあります。

中学校へ入学後も、家族の支え、仲間の支え、校長先生、担任の先生をはじめとする先生方の支えがあり、様々な経験をしつつ、中学校生活を見事にやり抜きました。

高等学校進学の時には、中学校の校長先生が、夏休みに、Aさんが受験を希望する高等学校に直接出かけ、Aさんの受験について校長先生同士で事前協議するという配慮もありました。そして、Aさんは、現在の普通科高校に見事合格し、現在に至っています。

ワークを通して感じ取ったこと

講演会では、体育館の壇上に演台があったものの、そのほとんどをフロアに降りて、生徒の皆さんの近くで、お話しました。

絵だけでことばを伝え合うペアワークでは、コミュニケーションや感じ方は、人それぞれ個性があって、互いに理解し合わないと通じないこと。でも、相手の立場に立って考え抜いて答えが合ったときには、無上の喜びがわいてくること。

近くの仲間数人で「同じこと見つけ」をするグループワークでは、日頃、違いばかり気になっていた仲間と同じことを見つけていくと、意外なことで共通点がみつかり、日常とは違う話し合いができ、とても新鮮な気持ちになれたこと。

こうした発見や気づきがいっぱいあったようでした。講演が中盤にさしかかる頃には、高校生や先生方のどの表情も温かく、真剣なものと感じました。

後半、残り三十分となった時、「ここで聞いて欲しいことがあります」と、私がこれまで出会ってきた中高校生の相談事例から、悲惨ないじめがもたらす心の傷跡、たとえ困難さがあっても、同じことに注目し、仲間として関わり合うことによりだれもが輝けることについて話しました。高校生のみんなは、さっきまでやってきたワークの意味を再度認識し、日常の自分たちの姿を振り返ってくれているようでした。

最後に、委員長がお礼の挨拶として、感想を述べてくれました。

「ゲームはとても楽しかったです」と前置きした後、「友達との違いばかりが気になっていましたが、同じことがいっぱいあることに注目することの大切さを学びました」「いじめが人の心を深く傷つけ、いつまでも消え去ることのできない苦しみを残していくことがわかりました」と、という趣旨のことを熱く述べてくれました。

私は、心から、この高等学校に招いてくれたことに感謝しました。どの高校生も、自分との関わりの中で、受け止めてくれたという実感がもてたからです。Aさんのことを直接話したわけでも紹介したわけでもありませんが、きっと考えてくれるだろうという期待ももてました。

多感な高校生世代との対話

私は、四十五年前の高校生だった自分のことを思い出していました。子ども会のリーダー活動や、障がい者施設や母子寮への訪問ボランティア活動に明け暮れていました。いろいろな方々と出会い、そのたびごとに、自分の無力さや至らなさにうちひしがれる時もありましたが、同時に、だれもが、懸命に生き抜いているという事実に向き合うことができました。これからも、多感な高校生世代と対話していくことを大切にしていきたいと思います。多くの可能性としなやかな感性をもっている彼ら彼女たちだからこそ。

健康的な生活習慣づくり、家族のコミュニケーションづくりにつながる『ノーメディアチャレンジ』

郡上市立和良小学校
養護教諭
後藤 明美

「おはようございます」

校庭の端から端まで届くような大きな声が響き、和良小学校の朝が始まります。少し早く学校に到着した子どもたちがつくるあいさつロードを、ハイタッチであいさつしながら元気よく登校してくる子どもたち。『誰もが居心地のよい、笑顔あふれる楽しい和良小学校』を合言葉に、今日も子どもたちの元気な声がこだまします。

二時間目の授業が終わると「青空」と呼ばれる二十五分間の休憩時間。この時間は、天気が良い日は外に出て、体を動かす時間です。学級遊びや異学年でのペア遊び、全学年を縦割りにした仲良し班遊びなどで、時間いっぱい体を動かして遊んでいます。

健康的な生活の基本は、早く寝て、早く起きて、しっかり朝食を食べること。昼間いっぱい体を動かすことで、夜には自然に眠くなるのが理想ですね。

しかし、テレビやゲーム機、タブレット、スマートフォンなどのデジタル機器が、その大切な眠りを邪魔していませんか？

和良小学校区では、学校医、保育園・小・中学校の保護者、地域の方々と一緒に、子どもたちの健康づくりに取り組んでいます。その中で、睡眠時間が十分でない子どもがいること。その原因として、夜遅くまで動画サイトを見ていたり、ネットゲームやメッセージアプリなどがやめられなかったりといった、デジタル機器との付き合い方に問題があるのではないかという意見が出されました。

そこで、テレビやゲーム機、タブレット、スマートフォンなどのデジタル機器の使用時間を、自分でコントロールする力を身につけ、早寝・早起きなどの健康的な生活習慣づくり、家族のコミュニケーションづくりにつなげることを目的に、『ノーメディアチャレンジ』に取り組みはじめました。

『ノーメディアチャレンジ』の期間だけでなく、日ごろからメディアとの付き合い方を考え、デジタル機器に振り回される生活ではなく、使用時間などを自分でコントロールする力を身につけてほしいと願っています。


笑顔であいさつをする子どもたち

今年のテーマは『ノーメディアで早寝・早起き』。夏休み・十一月・冬休みの年三回、保育園・小・中学校が一緒に『ノーメディアチャレンジ』を実施しています。毎日チャレンジする目標は「寝る三十分前はノーメディア」と「勉強中はノーメディア」の二つです。その他に、ノーメディアにする時間を決めたり、食事中はノーメディアにしたり、一日中ノーゲームにしたりと自分たちで選んで取り組む目標もあります。

取り組み後の小・中学生や保護者の感想を少し紹介させていただきます。

・寝る前にゲームをしなかったので、落ち着いてぐっすり眠ることができました。目覚めも良い！

・ノーゲームにすることで、勉強や読書をする時間を増やすことができました。

・食事中ノーメディアにしたら会話が増えました。

・読み聞かせ、トランプ、川遊びなど家族でふれあう時間ができました。

『ノーメディアチャレンジ』に積極的に取り組んでいただける家庭が多く、ノーメディアで睡眠時間が確保されただけでなく、ノーメディアの時間を使って、おうちの仕事を一緒にしたり、体を動かしたり、読み聞かせの時間を作ったりと楽しい体験をしている家庭がたくさんありました。

今の子どもたちは、生まれた時からインターネットが身近にあり、これからもインターネットにふれないで過ごすことはできないでしょう。インターネットがやめられなくなる『ネット依存』の問題だけでなく、課金などのお金に関すること、個人情報の流出や犯罪に巻き込まれる危険があることなどの問題もあります。

恩師との出会い

羽島市立中島小学校
教諭　児玉 麻美

自分の小学校生活を思い返してみると、やはり小学校三年生の一年間が一番楽しかった。

「わかると楽しい」
「できると嬉しい」
「もっと知りたい」

と、実感させてくださったのは、当時の担任の大橋仁美先生である。

中でも一番印象に残っているのは社会科の授業である。きっと三年生の社会科を選択したのだと思う。てわたしは社会科が好きになり、教員免許を取得するときも迷わず社会科を選択したのだと思う。

三年生の社会科の学習の中に「町探検」がある。校区を探検して、何があるのか、どんな人達がいるのか歩いて調べる学習だ。わたしが当時通っていた小学校は校区に幹線道路、スーパーマーケット、ホームセンター、古くからの商店街、昔からの機織工場、新しい住宅、水田、畑、名鉄電車の線路や駅などあらゆるものがあった。社会人になってからは車で簡単に見てまわることができる。しかし、小学生の私にとって校区はとても広く、自分の通学路ぐらいしかわからなかった。校区のほとんどの範囲が自分の知らない場所だった。

「町探検」は小学校を中心にして東西南北の四方向に出かけた。その中でも忘れられないのが探検の前に必ずしていたことである。それは、大橋先生が、毎回屋上に私たちを連れて行き、

「今日は学校の南、あちらに行くよ」

と、教えてくださったのだ。今では決して簡単にはできない「屋上に上がる」ということ。それだけでも楽しかったが、屋上から校区を見ると、どんなものがあるのだろう、どんな人たちに会えるのだろうとワクワクしたのを覚えている。実際に探検に出かけると、普段は行かない場所、通らない道…新しい発見の連続だった。また、毎日の通学路でも登校・下校の時とは違うものもあった。工場から機械の動く音が聞こえたり、お店が開いていたり、車や人の往来があったり…。校外へ出かける学習は楽しいが町探検は特に楽しかった。

「自分の知らない場所に、知らない人の暮らしがあること」

これがわたしの「わかるって楽しい」のきっかけである。

当たり前のことだが、三年生の私にとっては、とても新鮮な発見だった。「町探検」でのワクワクを今度は教室でまとめる作業があった。大橋先生はまとめの用紙を何種類か用意され、自分たちで選ぶことができた。サイズはどれもB4。何も書いていない真っ白な用紙、方眼が印刷された用紙、罫線が印刷された用紙、新聞のように分割された枠が印刷された用紙…など自分の書きたいものに合わせて選ぶことができた。わたしは絵を描くのが好きだったので、町探検で出会った働く人々の絵を描いた覚えがある。自分の好きなように自由に楽しくまとめることができた。「できると嬉しい」そして「もっと知りたい」と思い、町探検のたびに新しい発見をまとめていった。この授業以来、社会科（特に地理）を楽しい、面白いと思うようになった。「町探検」をきっかけに私の興味関心は大きく広がっていった。

他にも、国語や図画工作において楽しくなるきっかけをくださった。国語では宝島の地図をもとに物語を書いた。地図に色を塗ったり、どうやって宝物まで行きつくかストーリーを練ったり、表紙をつけたり、みんなで読みあったりした。図画工作では、どうやったら白波を絵の具で表現できるか悩んでいたときには、絵の具チューブから出した白色を画用紙にはたく様にして塗る方法を教えてくださった。同じ色ではなく、似たような色を重ねて塗っていくことも、このときから少しずつ面白いと思うようになった。

小学校の頃の「楽しい」「面白い」は今でも鮮明に覚えている。教員となった今、子どもたちを前にして「どうやったら楽しい授業になるのか」というのは常に課題である。恩師との出会いに感謝しつつ、これからも「できた」「わかった」「楽しい」「面白い」と感じる授業を目指して日々取り組んでいきたい。

大事な挨拶

各務原市八木山小学校 PTA会長　三品 亜希子

三品家の巻

93



「おはよう」わが家の一日はこの言葉から始まります。どんなに喧嘩した次の日の朝でも必ず挨拶するのがわが家の決まりです。

わが家には、小・中・高校生の三人の子どもがいます。毎日慌しく過ぎる時間の中で、私が常々言い続けているのが「挨拶をする」という事です。小学生の子どもはバスケットボールクラブでプレーしていますが、その中でも挨拶をする事で「相手を讃える・敬う」という大事な精神が学べています。おかげで他チームの子ども達とも仲良くなり、交友関係も広がりました。

挨拶は生きていく上で、人と人を繋ぐ架け橋になると私は思うのです。親子であればなおさら言いにくい「ありがとう」「ごめんなさい」を言える家庭は、親子の絆も繋がりが強くなるのではないでしょうか。

親しき中にも礼儀ありという言葉があるように、社会の入口第一歩である家庭での挨拶は、家族みんなが心に留めていてくれます。

話そう！語ろう！わが家の約束

人との関わり合いを大切に

岐阜市立島中学校 PTA書記　伊藤 京子

伊藤家の巻

99



我が家は中学二年と小学四年の息子がいます。子どもが小さな頃から節目などにする話は、

一、あいさつをする

前日に喧嘩をしても朝起きたら「おはよう」と言い合う。「ありがとう」は絶対に言える人であって欲しい。

二、自分がされたらいやだと思うことは人にはしない

三、自分の主張はしっかりする

人に気持ちを察してもらうより先に、自分で自分の思いを伝える。

この三つです。

私は生きていく上で大切なのは〝人との関わり合い〟だと思っています。なので、このような話をするようになりました。この三つに共通する大きなルールは「命（自分も人も物も）を大切にする」事だとも息子たちに伝えています。

おかげさまでこれまで、息子たちも優しい友人や大人たちが周りにいて見守ってもらっていると感じています。この「約束」がすべてのヒントになっていると信じているので、この先の人生でも大切にしてもらいたいです。もちろん、親の私も今もまだ実践中です。

先生！ありがとう！

～保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ～

感謝の瞬間

「起立、礼！」学校には、授業の始まりに号令がかかり、「お願いします」と生徒が一斉にあいさつするシーンがあります。終業時には「ありがとうございました」。生徒が学んだ喜びを感じながら、先生や友達に対する感謝を表す言葉を発する瞬間です。

一日に何度もあるこの場面。私はこの感謝の瞬間を、先生、生徒、そして保護者とで今以上に意識していってはどうかと思います。

先生にとっては、生徒のことを考えながら授業の準備をし、楽しくわかりやすい授業をやりきった瞬間、生徒にとっては「できた！」「また次の時間もがんばろう！」と成長した瞬間です。保護者はその瞬間に立ち会うことはできませんが、自分の子どもが学力だけでなく、向学心、社会性、他を尊ぶ心等を高める瞬間が、一日に数度あることを意識する。

学校には日々、先生や仲間、周りに対する感謝の心を持ち、それを表現するタイミングがたくさんあります。ぜひ各家庭ともそのことを認識し、皆で感謝の輪を広げたいと思います。

（平野 宏司・大垣市立東中学校 PTA会長）

生徒として、保護者として

長男が通う中学校長は私の恩師です。入学式の「起立」の声で分かりました。三十年前と全く変わらないキリッとした声でした。思わず私も背筋がピンとなりました。生徒に対する熱意と情熱の灯は、消えることなく灯り続けていました。私自身そんな先生の思いが煙たくなった事もありました。しかしこれが現在、親になった私の糧にもなっています。まさに子どもに引き継がれています。先生のご指導により学校全体の雰囲気も良好です。体育祭は、「生徒一丸」まさにその通りでした。他の先生方の力強いご指導も十分伝わりました。そんな学校に、毎日元気に登校する長男の後姿を見て安心しています。

偶然の再開でしたが、私自身も少し生徒気分を思い出しました。同時に、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

（大脇 ゆかり・八百津町立八百津中学校PTA）

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお送りください。

宛先はいずれも　〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

子育てから得た宝物

子育て半生記

可児市立広見小学校 PTA会長　高見 昌彦

私は、職人の父、喫茶店を営む母のもとで育ちました。

両親共に忙しく、家族みんなで食卓を囲む事は殆どなく、もっぱら離れに暮らす祖父母が面倒を見てくれるそんな環境で育ちました。

当時野球少年だった私は、いつも忙しいと言ってキャッチボールもしてくれない父を憎んだりもしていました。

両親がお互い仕事から帰ると、いつも喧嘩ばかりで、そんな毎日が続きました。そして暫くして私が中学の時、離婚をしました。

私は父方に就いたのですが、多感な時期の離婚、そして再婚。新しいお母さんとも馴染めず、いつもギクシャクした関係でした。中学に入学後は大好きだった野球も、入部して間もなく辞めてしまい、高校に進学するも二年生の夏前に中退。

その頃からやめ癖がついていたのか、中退後両手で足りない程の仕事を転々とし、そんな折、ひょんなことから内装工事の仕事と出会いました。職人を通して、こんな自分でも人に喜んでもらえるんだと気づき、今までの遅れを取り戻すべく、無我夢中で働き二十三歳に独立。仕事もずっと右肩上がりで業績も好調でした。その後二十七歳で結婚しました。

しかし、私の未熟さから両親と同じく自分も離婚を経験しました。経済的には豊かでしたが、心は貧しいそんな時期でもありました。と、ある日のこと些細な事で父と大喧嘩。道を挟んで隣に住んでいる両親と一年半もの間、ひと言も言葉を交わさない、そんな事もありました。

昔からいつも父と喧嘩をすると決まって言うセリフは、「お前も親になったらわかるわ！」でした。

その後再婚して、三人の息子に恵まれ、それはそれで喧嘩の絶えない我が家ですが、リアルに親になれた事で両親の気持ちが初めて分かった気がしました。理屈では分かっていたつもりでしたが、実はなにひとつ分かっていない事に気づきました。

幸い三人の息子がみんな野球をしてくれて、私もお手伝い程度しか出来ませんが、コーチをさせていただく事になり、私の少年野球時代のコーチに子どもを連れて当時のお礼を伝えたりと、感謝の気持ちを持てるようになりました。子どものお陰でもあります。

そんな子どもが通う広見小学校は私の母校でもありますが、ある日、卒業時に埋めたタイムカプセルを掘り出せていない事に気づきました。

誰かが言い出さないとずっと眠ったままになってしまう…。そんな想いのなか、そのカプセルを掘り出すイベントの言いだしっぺと同時に実行委員長をすることとなりました。そして、翌年には中学校全体同窓会の実行委員長をさせてもらう事にもなってしまいました。

学歴も無く、不似合いな役で大変ではありましたが、他の誰よりも当時の自分と向き合う貴重な経験をさせてもらう機会となりました。

そこで…「親父が元気なうちに今までの親不孝を謝って、お礼を伝えたい」そんな抑え切れない感情が湧いてきました。

家族で食事に行き、家族みんなの前で立って、作文にして読み上げたのですが、読みはじめから涙が止まりませんでした。そんな私の姿に、子ども達も戸惑いを隠せない様子でした。

しかし、離婚をはじめ親のしてきたことを自分も無意識に繰り返した経験に歯止めをかけたいと思ったのかもしれません。

いつか子どもが大人になって、親になった時、どこか心の片隅にでも残ってくれたらいいな、そんな想いでした。

そんな思いに辿り着くことが出来たのも、両親、家族や子ども、そして周りの方々のお陰だと心から感謝の気持ちでいっぱいです。

あれだけ不仲な時期もあった父に対しても今では愛おしくさえ思えるようになりました。

両親からしたら、まだまだ頼りない息子ではありますが、親からしてもらった事への恩返し、そして、子ども達の頑張りに負けないよう、子育てを通して共に成長していきたいと思います。

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. スーさん（養老郡）



PN. あおい（大野郡）

question 1

出題・伊藤 慎介（山県市）

〈答えは41ページ〉

台所にあるのに、
夜しか使えない
物ってなあに？

楽しい読み聞かせ 9

「読み聞かせ」が活動のきっかけ作りに！

中津川市立阿木小学校ＰＴＡ

本校では、地域のボランティアの方が二回、家庭教育委員会を中心とした保護者が二回、年に四回、読み聞かせを行っています。ここでは、家庭教育委員会が中心となって行っている読み聞かせについてお知らせします。

時期は六月と十一月の学校の図書館まつり期間（読書週間）に合わせて行っています。時間は、朝の十分～十五分と短い時間ですが、毎回子どもたちがとても楽しみにしていて、本と向き合う大切な時間となっています。

読み聞かせ参加者の募集

読み聞かせは年度の初めや途中に保護者の方たちに参加・協力していただける方を募集します。読み聞かせをする側は緊張しますが、上手に読むことが目的ではなく、普段見ることのできない子どもたちの表情に出会えるチャンスでもあり、本を通して子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごし、読書の楽しさを共有する時間でもあります。最近では、お母さんだけでなく、お父さんにも参加していただいており、お母さんとはまた違った視点での本選びやお父さんならではの読み聞かせに子どもたちは特別な期待感をもっているようです。

読み聞かせをしてくださった方からは、「とても興味をもって聞いてくれて嬉しかった」「緊張したが、温かく迎えてくれたので楽しく読むことができた」「子どもたちの元気な声と笑顔を独り占めできる特別な時間だった」「子どもたちが、かわいい笑顔で真剣に本を見ている姿はとても印象に残り良い経験ができた」といった感想がありました。普段人前に立って話すことのない方でも、参加することで読み聞かせに対する印象が変化するようです。



「お弁当の日」とコラボした読み聞かせ

例年は学年に応じた内容の本を選んでいますが、今年度の一回目の読み聞かせでは、十月の「お弁当の日」とコラボして、「食育」をテーマにして読み聞かせを行うことにしました。食育の本と言っても「どんな本を読んだらいいのか」と悩まれないよう、司書さんを始め、先生方にも協力していただき、食育に関する本を紹介させていただきました。

食育をテーマにした読み聞かせを通し、子どもたちは、「本に出てきた料理を食べてみたい」「調理している人の気持ちが分かり、感謝して食べよう」「お母さんを手伝おう」など、作ることや食べることへの期待が膨らんだようでした。

お弁当の日に向けて、お弁当の中身や自分がどんなことならお弁当作りに関われるのか、またどんなお弁当にしたいのかなど、親子で相談して計画書を作りました。

当日は事前に計画した通りにいかないこともありましたが、おかずを作ったりお弁当箱に詰めたりして、親子でお弁当作りに取り組みました。こうして作ったお弁当は子どもにとって特別なお弁当になり、友達と見せ合ったり、自分はどんなことをしたのか話したりと、とても楽しい時間になりました。読み聞かせが楽しいお弁当作りに繋がり、お弁当を食べている子どもたちの姿は幸せいっぱいでした。

「読み聞かせ」を通して

今回は初めて「食育」というテーマを設けて「お弁当の日」と関連付けて読み聞かせを行い、効果を実感することができました。今後も活動のきっかけ作りになるようなテーマをもって「読み聞かせ」を行っていければと思います。





親の背中 ④

人間味と料理

高山市立三枝小学校
ＰＴＡ会長　丸田 茂雄

私には娘が三人います。可愛くて仕方がありません。自分自身、親となってわかった事ですが三人が三人共、生まれながらに持ち合わせた性格が違います。

大まかに例えるとですね。

長女、五年生（真面目な宇宙人）たまにファンタジーな世界観がありいつの間にか学業を習得する子。

次女、二年生（聖母マリア）愛と慈愛に満ち溢れております。

三女、年中（甘えん坊のマッチ）お母さんを取られまいと産まれながらにＤＮＡに刻まれて来た神童、常にプンプンしてます。

と言ったところでしょうか。毎日に刺激を与えてくれます。

さて、子どもに恵まれた私ですが我が子に人生の歩み方を教えてあげればいいのか実際わかっておりません。私自身あやふやです。

こんな事ではダメだとは思いながらなかなかこれが大人！親！っていうのは苦手です。

学校という学び舎から離れ、社会に出て、色々な方と出会い、歴史上の人物に憧れ、話して学び、見て学び、聞いて学び、子どもと共に親として成長させてもらっている私がまだ唯一、子どもに教えている事。

一番は「優しさ」です。

親としてでは無く一人の人として。優しさを自分が相手に出してあげるにはどうすればいいか。何をしてあげたらこの人は喜んでくれるのか。

相手を想い、気付き、そして行動する。そんな、毎日のルーティンが少しでも子どもの成長につながると思っています。

「出会った人を大切にして思いやり優しい雰囲気で包んであげられる様な子になってほしいから」

二番目は「笑顔」ですね。

自分の笑顔で相手を元気にしてあげられる位の太陽の様なエネルギー溢れる人になってほしいから。

「顔から滲み出す笑顔で一番に道を聞かれる人になってほしい」これが出来ればそれでいい。

私がテーマにした、「人間味」。

人間の味と書いてますがまさに産まれて来た時にある性格が人間の味。そして、親として教えてあげられる事は苦い物も食べられる様にするスパイス。

全てを飲み込まなくてもいい、食べてみて苦手な物は吐き出してもいい。いつかそれに合うスパイスがみつかるから。それが人によってか自分かはわからないけど、でも、この世の中は色んな味で満たされているから色々好き嫌いなく食べてみなさい。

赤ちゃんの頃、母乳の飲み方が産まれながらにわかる様に。子どもの頃に父と母が教えてくれた箸の持ち方で食べ方がわかった様に。なかなか、私自身これだ！っと言い切る事は出来ません。

ですが、私の人間味を常に家庭の中で味わってもらい甘いも苦いも自分の味の中に混ぜて貰って色々なスパイスと共に美味しく食べられる料理に仕上げてほしいです。

さて、うちの子にはどのスパイスが合う事やら。これからが楽しみです。

見る事が出来ない自分の背中

岐阜市立厚見中学校
ＰＴＡ会長　髙森 幹啓

基礎となるのは親に言われた言葉

「親の背中」って？まず、自分は立派なことを言える中学生活であっただろうか？親を語る程の親か？この機会に初めて考えました。

最近、中学三年生の子どもと進路のこと、生活面のことなど、色々と話す機会があります。しかし、本当にこの子は聞いているのか？言っても変わらないのは言い方が悪いのか？そんなふうに考えるとき、「じゃあ、自分はどうだった？」と自分に問うことがあります。私の親父は今年（二〇一九年）に他界しました。私が親父に怒られた場面を思い出しているとき、あることに気がつきました。子どもの頃は、親に何かを言われるたびに「面倒くさい」「煩い」と思っていましたが、自分の子どもには同じことで怒っている。親に言われたことは聞き入れないが、親に言われたことは自分の子どもには語っている。社会人としてあるべき姿を親は必死に教えようとしますが、それを本当に理解し、実行に移すには時間がかかる。色々な人と出会い、時には悔しい思いをし、人のやさしさに気付き、様々な経験をする中でこそ、正しいことを探し始めるのだと思います。ただ、その基礎となるのは親に言われた言葉であり、それは言霊として語り継がれるのだと感じます。

一生懸命勉強するしかない

仕事で海外に行くことも多々あります。発展途上国の子ども達は生きるために家の手伝いも頑張ります。学校に行けることが嬉しい、学びたいと頑張ります。親は自分たちが教育を受けることが出来なかったため、せめて子ども達だけには教育を受けさせてあげたいと懸命に働きます。

ある政治家の先生が答弁で「『朝、希望を持って目覚め、昼は懸命に働き、夜は感謝と共に眠る』この気持ちが大切」と語りました。素晴らしい言葉だと思います。

子どもに言う前に親である私が希望を持って目覚め、楽しそうに仕事に行き、帰って感謝の気持ちを持って眠るのか？を考えると、出来てないと思います。ただ、一生懸命働いていることだけは、きっと感じてくれているでしょう。

何でもいいから夢中になることを探して欲しいと願います。勉強でなくてもいい、夢中になれることがあれば人生は素晴らしいものになるからです。そして、夢中になることが出来たら、その夢中になることを更に極めるためには、一生懸命勉強するしかないことに気付くからです。

「親の背中」の終了証を貰う日まで

「親の背中」を語るのは難しい。背中は自分で見ることが出来ないから。しかし、自分の背中は「親の背中」として相応しい行動が取れているかを考えることは大切だと感じました。今できることを一生懸命し、正しいことを話すことで私も成長し、「親の背中」に子ども達も何かを感じて欲しいと願います。

私がこの世の役目を終える時、子ども達が「親の背中」を評価し、子ども達から「親の背中」の終了証を貰うまで日々頑張り続けます。



のら猫の命をつなぐ物語
家族になる日

春日 走太 著
学研プラス

揖斐川町立清水小学校 PTA書記
杉山 裕美



ある日、我が家に事件が起きました。私には中学生と小学四年生と二年生の子どもがいます。その小学生の娘二人が、小さな子猫を自宅の近所で見つけたようで、

「お母さん見て。猫の赤ちゃんがいたぁ！」

と興奮して、ボロボロの段ボール箱を抱かかえて帰ってきました。

そして、

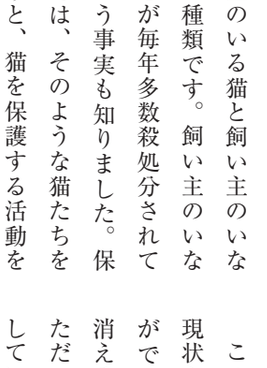
「ちっちゃくて可愛い！飼っていい？」

と、声をそろえて訴えてきました。

その子猫は皮膚の病気があるため、飼うのか保健所に連れていくのかとても悩みましたが、とりあえず動物病院に連れて行きました。先生に事情を説明すると、良心的に診察し、協力していただけました。治療も済み、今後の事は未定のまま、エサを与え、暫く飼ってみる事にしました。

ある時、子ども達から、

「お母さん、猫の鳴き方で気持ち



が解かるんだよ。」

と言われました。お腹が空いている時は「ニャーウ」、遊びたい時は「ミャウ」。寂しい時は「ニャーゴ」、寂しい時は「ミャウ」。

鳴き方でその時の気持ちを訴えてることに気付き、猫の気持ちが知りたいという子ども達の願いを感じ、この本を手に取りました。

この「家族になる日」には、原発事故の被災地からやって来た猫の話が書かれています。人間を知らずに育ち、誰もいない帰還困難地域で、獣に怯えながら生きてきた猫でも、時間をかけて愛情を注げば、家族になれるのだと知りました。

また猫の保護施設では、同じ猫でも二種類に分別されます。それは飼い主のいる猫と飼い主のいない猫の二種類です。飼い主のいない猫たちが毎年多数殺処分されているという事実も知りました。保護施設では、そのような猫たちを保護する活動を理解する事ができ感謝しています。そして、消えそうな命を救い、支援していただいた獣医の先生にも大変感謝しています。

この本に出会い、今ののら猫の現状や保護する活動を理解する事ができ感謝しています。そして、消えそうな命を救い、支援していただいた獣医の先生にも大変感謝しています。

子ども達に猫を保健所へ連れて行く意味を教えると、泣きながら「大切に飼う」ことを決心しました。そして、「命を大切にすること」の意味の重さに気付く事ができました。

この「家族になる日」を読み、保健所に連れていく事をやめ、子ども達と一緒に育てる事に決めるなど、まさに「家族になる日」を迎えたのです。

この本に出会い、今ののら猫の現状や保護する活動を理解する事ができ感謝しています。そして、消えそうな命を救い、支援していただいた獣医の先生にも大変感謝しています。

猫を保護し、世話をするだけの場所ではなく、「猫の里親」や「新しい飼い主」を見つけるための活動もされています。私はこの様な活動をしている保護施設がある事すら知りませんでしたので、大変心を打たれました。

子ども達に猫を保健所へ連れて行く意味を教えると、泣きながら「大切に飼う」ことを決心しました。そして、「命を大切にすること」の意味の重さに気付く事ができました。

この「家族になる日」を読み、保健所に連れていく事をやめ、子ども達と一緒に育てる事に決めるなど、まさに「家族になる日」を迎えたのです。

この本に出会い、今ののら猫の現状や保護する活動を理解する事ができ感謝しています。そして、消えそうな命を救い、支援していただいた獣医の先生にも大変感謝しています。

チーズはどこへ消えた?

スペンサー・ジョンソン 著
扶桑社

瑞浪市立瑞浪中学校 PTA副会長
河口 豊



この本は約二十年前に話題になった本です。日本語のタイトルは「チーズはどこへ消えた?」ですが、英語のタイトルでは「Who Moved My Cheese?」です。チーズが主語ではなく、誰が?となっています。最初はあまり気にも止めなかったこのタイトルが読み終えた時に、なるほど、そういうことか!となり、思い出に残る一冊となりました。

この本に登場するのはネズミのスニッフとスカリー、小人のヘムとホーです。彼らは迷路でチーズを探しています。食料にする為と幸せになる為です。当然、ネズミと小人ではチーズの探し方が違ってきます。ネズミは、とにかく行動し、迷路を迷いながら進んで行くのに対して、小人は経験から得た教訓を活かして進んで行きますが、このことがより迷路の中での生活を複雑なものにすることもありました。対照的な二匹と二人は、自分達のやり方を築いていく中で、チーズ・ステーションCで念願のチーズを発見します。そう、このチーズこそがタイトルにもなっているチーズなのです。

そして、ある日チーズは無くなってしまいます。当然、毎日食べていたら、いつかは無くなりますが、小人はそれに気づこうとしません。それはネズミと小人の対応がチーズを発見後に大きく変わるところに見られます。ネズミ達は、単純にチーズが無くなれば、また次のチーズを探すという今までと変わらない生活を続けます。食べていても、すぐ行動できるようにしているのに対して、小人のヘムとホーは安心しきってしまい、この状況が変わることなど考えもしなくなってしまうまで気がつきません。そしてチーズが無くなってしまった後もチーズ・ステーションCに居続けます。そして遂にホーが、再び迷路の中を走り始めます。迷路の中を走り回るなかで、いろいろなことに気付き、それを書き綴っていくことになります。ステーションCに居続けるヘムの道しるべとして、自分への戒めとして壁に書き続けます。こうして新しいチーズ・ステーションNで念願のチーズを発見、既に到着していたネズミのスニッフとスカリーに再会します。この時にはもう以前のホーはいません。常に変化が起きていないか注意をして、新しいエリアの探索も怠りません。小さな変化に気づき、やがて来る大きな変化に対応できるようになること、最大の障害は自分の中にある、「自分」が変わらなければ好転しないことを思うのです。

「Who Moved My Cheese?」チーズが無くなってしまった時の小人のヘムとホーと同じように「誰か」のせいにしていませんか?と問いかけているように思えました。是非、この本を手に取り、ホーが新しいチーズを探し求めて迷路を走っていく中で、書き綴った言葉を読んでみてください。どれも共感できる事ばかりです。そして次に「自分」が何をすべきなのか?を教えてくれます。私のお勧めは、そんな一冊です。

子の思い

みんなのいいところ

養老町立池辺小学校　一年　田中 樹

ぱぱ、まま、いもうと、おじいちゃん、おばあちゃん、そしてぼくの六にんかぞく。

ぱぱのいいところは、いつもかぞくのためにいっしょうけんめいしごとをがんばっているところ。ままのいいところは、かぞくのために、ごはんをつくったり、しょっきあらいなどをがんばっているところ。いもうとのいいところは、いつもほいくえんに、にこにこえがおでいっているところ。おじいちゃんのいいところは、ぼくやいもうとと、たくさんあそんでくれるところ。おばあちゃんのいいところは、かぞくのことをいつもかんがえていてやさしいところ。ぼくはかぞくがだいすき。

ぼくが、かぞくのためにできること。それは、おてつだいをしたり、いもうととあそんだり、「ありがとう」とつたえたりすること。だいすきなかぞくのために、ぼくも、がんばるね。

あいさつの素晴らしさ

美濃市立大矢田小学校　六年　梅村 陸翔

僕は、「あいさつはとても大切だ」と思っています。あいさつをすると、自分も相手も笑顔になり、嬉しくなったり明るい気持ちになったりするからです。

僕は児童会運営委員として、児童玄関に立って「あいさつ運動」をしています。僕が「おはようございます」と言うと、低学年の子が僕の目の前まで来ておじぎをしてあいさつをしてくれました。僕はとても嬉しくなってもっとあいさつをしたいと思いました。僕があいさつをすると笑顔になってくれる人もいて、「あいさつはいいな」と思えるようになりました。

また、低学年と一緒にドッジボールをしている時に、低学年の子にボールを譲ると「ありがとう」と言ってくれました。僕は相手が喜んでくれたことがわかり、心がポカポカしました。

「おはようございます」や「ありがとう」の一言で、僕はとても温かい気持ちになれました。だからこれからも自分から誰にでもあいさつをすることや、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることで明るい学校や地域にしていきたいと思っています。

大切な存在

本巣市立真正中学校　三年　大野 茜梨

私には小学校二年生の妹がいます。妹とは七歳離れていますが、よく喧嘩をします。特に私が中学生になってからは、勉強や部活で忙しくなり、イライラすることが増え、妹に強く当たってしまうようになりました。自分のお菓子が無くなったとか、見たいテレビが違うとか、小さなことから大喧嘩につながってしまうこともありました。今思うと、私の機嫌が悪いという勝手な理由で怒ってしまって申し訳なかったと反省しています。

しかし、私が三年生になってから、妹が変わったように感じています。今までは、家で勉強していると部屋に入ってきたり、無駄に話しかけてきたりして、よくちょっかいを出してきました。その時も私は、妹の「かまってほしい」という気持ちに気づけず、怒ってばかりでした。そんな妹が今は、邪魔するどころか、応援してくれるようになったのです。私が塾へ行くとき、

「行ってきます」

と言うと、

「勉強頑張ってね」

と言ってくれます。家で勉強をしようとすると、

「勉強終わったら遊ぼうね」

と自分の気持ちをぐっとこらえて我慢してくれます。他にも色々我慢させてしまっているけれど、私が受験生だということを理解してくれて、すごくありがたいし、私にとってとても心強い支えでもあります。

私は妹が大好きです。毎朝おはようと言ってくれる所も、勉強を教えてほしいと私を頼ってくれる所も、面白いことをしてみんなを笑顔にしてくれる所も、かまってほしそうに寄ってくるかわいい所も全部大好きです。今は受験勉強でなかなか一緒にいられないけれど、努力して目標を達成するお姉ちゃんにあこがれてもらえるように、志望校合格を目指して一生懸命勉強したいです。そして、一人しかいない私の妹を、一生大切にしたいです。

親の願い

人生丸ごと遊んで学ぶ

御嵩町立御嵩小学校　PTA会長　名倉 和裕

我が家には、五年生と二年生の二人の息子がいます。子育てのモットーは、タイトル通り、「人生丸ごと遊んで学ぶ」です。妻や友人達との共通の趣味が、一年を通じて、アウトドア活動であることから、息子達も幼い頃より、自然に親しむ遊びやスポーツを楽しんできました。また、数年前にキャンピングカーを購入したことから、その活動域は、日本全国に広がりました。

例えば春は、湖畔でキャンプをし、カヌーをしたり、山菜採りをしたりします。蕗の薹やたらの芽を採るため、山に入りますが、時折、野性動物に遭遇することもあります。断崖絶壁からかけ降りてきたカモシカや、木登り中の熊の親子に出会ったときには、さすがに驚きました。しかし、そんなときは、チャンスとばかりに、それらの生態や棲息域などを調べ、勉強につなげたものです。

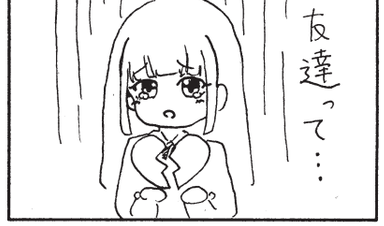
夏は、毎週川や海や湖に行きます。釣り、SUP、サーフィンなどをしたり、珊瑚礁域の海では、シュノーケリングをしたりします。水の性質によって、生きている魚が違うこと、ブラックバスなどの外来種、毒を持つ生き物がいることなど、実物と図鑑やインターネットなどを見比べて学びます。

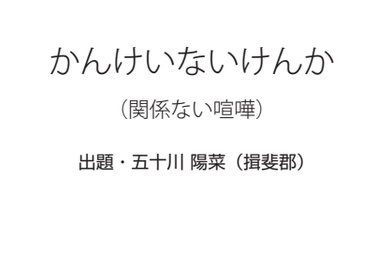
秋は、登山です。乗鞍岳などの三、〇〇〇m級の山から地元の低山ハイクまで、様々な山に登ります。命の危険とも隣り合わせであることから、道具や天気、地形のことも事前に学んでから登ります。登山中は、仲間の子ども達と励ましあったり、すれ違う人たちに挨拶をしたり、楽しみながらも大切なことを身

いつもごめんね、そしてありがとう。

県立大垣桜高校
まんが研究部

友達って…





逆さ言葉

かんけいないけんか

（関係ない喧嘩）

出題・五十川 陽菜（揖斐部）

に付けていったようです。山頂で、食べるラーメンが格別だと言うことも！

さて、冬ですが、十一月からGWまで、ほぼ毎週、滑りに行きます。息子達もスキー、スノーボードをしていますが、今では、ジャンプやBOX、レールなどのアイテムも楽しんでいます。雪山生活は、子ども達にとっては、まだ十年足らずですが、年々雪の量が減少することや、雪解けが早くなっていることから、地球温暖化についても、肌で感じているようです。

実は長男は、思春期に入り、いささかアウトドアにうんざり気味ですが、旅先では、城や遺跡巡りに興味を持つようになりました。次男は、勉強が苦手なようですが、学校で学んでいることが、ふと、生活経験とつながることも多いようで、後伸びを期待しています(笑)。

この珠玉の日々は、きっと子ども達の人生の糧になると思います。これからの人生も、親子で楽しみ学び続けたいと思います。

父から娘へ

恵那市立山岡中学校
PTA会長　大作 拓也

私の住んでいる地域は、こども園から中学校卒業まで、十二年間ほぼ同じクラスです。娘の同級生は、みんな気心が知れた仲で、団結力もあり、素晴らしい生徒さんが多く、娘たちも楽しく学校に通学しています。

私には中学三年生と小学六年生の娘が二人います。二人の娘たちは、とても素直で、思いやりのある子どもに育ってくれました。私自身は都会の一学年十クラスもある学校を卒業しました。都会の学校ということもあり、同学年の人でも話をしたことがない人もあり、何か、毎日が忙しい感じでした。しかし、山岡の学校は違います。一歩学校を出れば、山、川があり、四季がはっきりしています。校庭も広く運動や勉強には、とてもいい環境です。このような地域で育った二人の娘は、とても穏やかに育ちました。

上の娘は、幼い時は何ごとも一歩踏み出せず、友人との付き合いが苦手でした。しかし、小学校の途中から性格も社交的になり、友人も増えました。

ある日、自分に自信がもてずにいた時に「もっとクラスの仲間と話をして、輪の中に入ったら?」とアドバイスをしました。その後、クラス委員をしたり、生徒会に立候補したり、積極的になりました。その時のアドバイスを参考に、自分を変えた瞬間でした。父としても、うれしい一場面でした。

下の娘にも姉と同じようなアドバイスをしたところ、小学校の高学年から、友人を作る努力をするようになり、積極性がついてきました。その結果、あいさつも大きい声でするようになり、クラスの委員にも立候補してきています。これも、うれしい一場面でした。

子どもが分岐点にさしかかった時に、親が適切に方向性をアドバイスすることで子どもは変わっていくものだと感じました。これからも、子どもたちに「親としておせっかいをかける」ような関係でいられればいいと思います。

娘たちに、最後にひと言。恵那の大自然のように、大きな心をもち、人の話によく耳を傾け、思いやりのある人になってほしいです。人生は、挫折もあり、自分を見失いそうになることもあります。その時は、これまでの仲間との生活を思い出してしっかりと前を向いて歩み続け、そして時には親に相談してみてください。何かいいアドバイスをしますよ。

終わりに、今年度、PTA会長の役職に就き、今までにわからなかったことや、子どもたちに、以前よりもっと関心をもつことができました。いつもお世話になっている、学校の先生方や、役員の方、保護者様や地域の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

教育の窓

わが子への投資

飛騨市立神岡小学校
教頭　中島 直子

私の住んでいる地域では、中学校受験を考えている保護者はあまりいません。ピアノやバレー、英会話などの習い事に通ったりスポーツ少年団などに参加していたりする子は多くいますが、小さなころから塾に通って勉強をする子も多くはいません。わが子も小さなころから学習塾に通わせているわけではなく、習い事もほとんどさせていませんでした。

同僚のある先生が、お子さんについての話の中で「自分の子どもに投資してる?小さなころから多くの本物に触れさせ、子どもが自分の将来を考えたときに選択肢を多くしているといいよ。」と言われました。この一言が、私の子育ての転機でした。音楽の先生ということもあってか、一歳半から本物の音楽に触れさせ、英才教育もされていたそうです。確かに、赤ちゃんの頃から、英語に触れさせたり遊びを工夫したりするなどしているという話もあります。将来音楽に関わる道を歩ませたいと考えている親は、東京まで通って音楽の先生にピアノを習っているという話も聞きました。

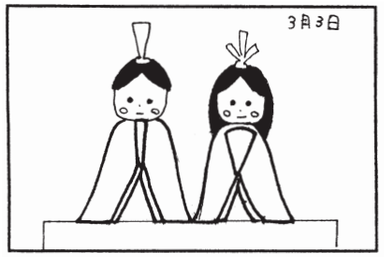
親としてそんな視点で子育てを考えたことがなかったので、とても衝撃を受けました。二人のわが子は、すでに小学校高学年でした。まだ、将来の夢をもっているわけではなかったので、「勉強をする」ということだけは、確実にやらせようと考え行動しました。私が考えたのは、お金の投資ではなく親がわが子に勉強を教えるという「時間の投資」です。勉強ができるようになるかどうかはやらないとわかりません。結果が出ないことも多くありました。でも、子どもに関わって一緒に勉強したという事実は、子どもの将来に大きく影響を与えました。

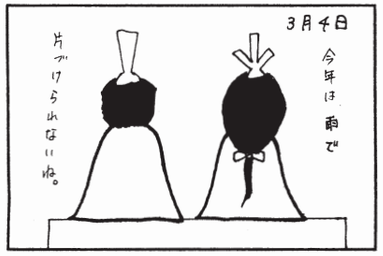
「投資」とは、お金だけではなく、時間であったり愛情であったり関わりであったり、親が子どもにできることすべてが投資だと考えます。そして、わが子の好きなことや得意なことを思いながら、「何をしてやることがいいのだろうか」「将来どんな職業に向いているのだろうか」と真剣に考えることももちろん投資です。

わが子についても、図鑑や本を家に置いたり、いろいろな仕事の話を家族の何気ない話の中に盛り込んだりするなどして、興味を引きそうな内容を探りました。もしかして、

県立大垣桜高校
まんが研究部

ひな人形・名古屋方面での言い伝え









逆さ言葉

わたしたわしわたしたわ

（私たわし渡したわ）

出題・林 優奈（各務原市）

もっと早い時期に将来のことを真剣に考えていたなら、わが子の進む道は違っていたかもしれません。だからこそ、私は、保育園の小学校入学の説明会の場や小学校の保護者の皆さんに「自分のお子さんは、将来どんな仕事につくと思いますか」「お子さんへの投資をしていますか」と問いかけます。「子どものよさ」や「得意なこと」などは、家で興味をもって取り組んでいるものや親子の会話の中からしかわからないことが数多くあるからです。親としてできる投資は、時期が遅くなってもやらないよりはやった方が子どもの人生に影響を与えるだろうし、早い時期からやればやっただけ子どもの力として発揮されるかもしれません。

現在わが子は、高校を卒業し次の進路に向かって歩み始めました。今後も、親として「わが子への投資」は、子どもが自立するまで、できる範囲で無理せず続けていきたいと考えています。

思いのバトン

瑞穂市立巣南中学校
主幹教諭　石野 陽子

「ガッシャン」
それは、放課後の校舎に響き渡るドキッとするほど大きな音だった。今から随分昔、私が小学生だったときの放課後の出来事である。
「植木鉢を運ぶの手伝ってくれないかな」
運動場で遊んでいる私たちは校長先生に声をかけられた。
「はい」と快く引き受け、何人かで植木鉢を運んでいた。「明日、ドッヂボールする?」なんて楽しく話しながら運んでいた。そのときだった。
「あっ」と思ったときにはもう遅かった。友達の手をすり抜けて、植木鉢が落ちたのだ。
「ガッシャン」
大きな音をたてて鉢が割れた。と同時に私は、「絶対怒られる!!」という思いに襲われた。いつもは優しい校長先生もさすがに怒るに違いない、と瞬時にしてそう思った。友達もきっと同じように思ったに違いない。顔色が真っ青になり今にも泣き出しそうになっていた。けれど、校長先生からかけられた言葉は私たちが予想しなかったものだった。
「手伝ってくれてありがとうね。大丈夫?けがなかったかな」
私は、その優しい言葉にびっくりした。「怒らないんだ…」。
そのときは分からなかった。校長先生は、友達が故意に落としたわけでなく、うっかり落としてしまっただけなのだと分かってくれていたのだ。校長先生を手伝おうとした優しい気持ちの方を大切にしてくれたのだ。もし、あのとき、「何やってるの。ちゃんと持ってないとだめでしょ!」「まったく、いつもあなたはいい加減なんだから」「もっと慎重にやりなさい!」そんなふうに怒られてしまっていたら、どんな気持ちになっていただろう。きっと暗い気持ちになって帰ったことだろう。手伝いなんてしなければよかったと後悔したかもしれない。友達と一緒に遊んでもどこかで気分が晴れなかっただろう。友達が失敗したときに笑ったり、友達が転んだら「あわてているからだよ。おっちょこちょいだな」なんて心無い言葉をかけたりしたかもしれない。ひょっとしたら、むしゃくしゃして誰かに意地悪なことをしてしまったかもしれない。
でもあのとき、校長先生に「大丈夫?」って声をかけてもらったから、今度は友達が失敗したときには「何やってるの!」ではなく、「大丈夫?」って優しく声をかけてあげればいいんだって私は思うようになった。
あのときの校長先生の「ありがとう。大丈夫?」という優しい言葉と優しい眼差しが今も私の心に残っている。それは私たちが校長先生からもらった「思いのバトン」だと思う。校長先生からもらった「ありがとう」と「大丈夫」を私も多くの子どもたちに届けていきたい。その子がもつ優しさを見逃さない大人でいたいと思う気持ちを秘めながら…。

ドライブレコーダー付き
自動車保険といえば、

MS&AD 三井住友海上



40

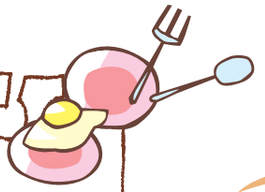
お試しクッキング

春野菜の米粉グラタン

岐阜県学校栄養士会

学校給食では、旬の食材を取り入れてそのおいしさを味わえる献立を工夫しています。この時期甘みがあっておいしい新玉ねぎなどの春野菜や、春を感じさせてくれるたけのこを、子ども達が喜ぶグラタンに入れてみました。

また、手軽に美味しく作るために米粉を使いました。米粉は製菓パン用の物を使い、牛乳を少しずつ加えてかき混ぜるときれいに作ることができます。給食では、岐阜県産の米粉を、から揚げの衣やシチューのとろみづけなどにも使っています。



作り方

❶ 新じゃがいもは皮つきのままラップに包み、電子レンジで3分加熱して、皮をむき、7mm厚さのいちょう切りにする。
❷ ベーコンは短冊切り、新玉ねぎ、ゆでたけのこは薄切りにし、スナップエンドウは筋をとっておく。
❸ 米粉とコンソメを合わせ、牛乳を少しずつ加えながら混ぜ合わせる。
❹ フライパンにバターを入れ、ベーコン、玉ねぎ、スナップエンドウ、ゆでたけのこ、じゃがいもの順に炒める。
❺ ❹に❸と塩こしょうを加え、中火でとろみがつくまで煮る。
❻ グラタン皿に入れ、ピザ用チーズをのせて、余熱した220℃のオーブンで約10分焼く。

材料

（材料4人分）

ベーコン……30g
新玉ねぎ……1/2個
新じゃがいも……中3個
スナップエンドウ……12個
ゆでたけのこ……80g
塩こしょう……少々
バター……15g
牛乳……3カップ
コンソメ……小さじ1
米粉……大さじ3
ピザ用チーズ……60g



●栄養価（1人あたり）

エネルギー……321kcal
たんぱく質……13.0g
脂質……13.8g
カルシウム……256mg
鉄……0.7mg
亜鉛……1.8mg
ビタミンA……131μgRE
ビタミンB_1……0.24mg
ビタミンB_2……0.40mg
ビタミンC……53mg
食物繊維……2.7g
塩分相当量……1.3g

3月号の

親子ではてな

Q1 春といえば桜の季節ですが、日本で一番遅く咲く桜は、次のうちどれでしょう?

ア　ヤエザクラ
イ　チシマザクラ
ウ　オオシマザクラ
エ　カスミザクラ

Q2 毎年4月1日は「エイプリルフール」ですが、発祥となった国はどこでしょう?

ア　ドイツ
イ　イタリア
ウ　フランス
エ　アメリカ



応募方法

応募者は、はがきで、3月末までに下記の宛先へお送りください。
（1人1枚・当日消印有効）
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- ●3月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所
  学校・学年・氏名
  保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

1月号クイズ答え

Q1　ア　　Q2　イ

1月号のクイズ当選者

中村　桃寧（岐阜市）　浅野　莉子（安八郡）
木戸　綾乃（羽島市）　河村　怜奈（関市）
木村めぐ美（各務原市）　鈴木　麻友（郡上市）
野村　泰平（山県市）　和田　夢彩（郡上市）
野村　秀祐（山県市）　伊佐治綾那（美濃加茂市）
堀　希実（羽島郡）　三宅　晴（美濃加茂市）
池田　涼菜（大垣市）　平田　健人（加茂郡）
勝　咲来歩（不破郡）

なぞなぞの答え

①やかん

多治見市立笠原小学校 ふるさとの伝承

笠原町には、幼稚園、保育園、小学校、中学校がそれぞれ一つずつあります。そして、平成十五年から、『笠原の子は笠原のみんなで育てよう』をスローガンに、「笠原校区幼保小中一貫教育」が始まりました。

笠原町は、昔から、陶磁器やタイルを地場産業とする町です。引っ込み思案の子ども達が、世界に出ても英語でのコミュニケーションで困ることがないように、そして、心豊かな一人前の大人になれるように、「英語教育」、「心づくり読書」、「心づくり道徳」を、三つの柱としてスタートしました。現在では、「学力向上」が四本目の柱に加わっています。

十七年続けてきた今、英語（外国語）も道徳も教科となったこと、読書の大切さは折に触れて話題になること、国をあげて学力向上へ向けた取組をしていること、何よりも、「一貫教育」自体がここ数年で全国的に注目されるようになったことを見ると、当時、このことに携わった皆さんの先見の明には驚きます。

中でも「英語教育」は、『町の誇り』です。十五年間に渡り、文部科学省の研究開発学校として「英語教育」を学校経営の中心においてきました。一年生から教科として外国語科の授業を行い、校内放送の大半が英語です。「親子で楽しく英会話」や二十名を超えるゲストティーチャーを招いて行う「国際交流の日」等の行事があり、夏祭りではＰＴＡ役員が「英語で注文をするジュース屋さん」を出店します。子ども達は、どんな言語を話す方に出会っても、物怖じすることはありません。保護者も地域の皆さんも一緒に、「英語」に慣れ親しんでいます。

また、学校運営協議会（コミュニティースクール）をスタートして、二年になります。今年度のＰＴＡ活動のスローガンは、『地域と共に活動しよう 笠原っ子』です。町の人の願い、保護者の願い、そして学校が大切にしていることがぴったりと重なっています。そこで、今年は、ＰＴＡ本部役員会と学校運営協議会のコラボ企画として「笠原パスポート」を作り、学校の行事、地域の行事、公民館等の行事に参加すると、共通のスタンプを押すことにしました。このことで、子ども達が進んで地域に出かけ、楽しんだりお世話になったり手伝ったりして、たくさんの人と関わることを通して、自己有用感が得られたり、地域のよさや地域の大人の温かさを感じたりしています。

こうした取組を通して、グローバルな感覚をもちながら、ふるさとのよさを感じ、ふるさとを大切にする人に育ってほしいと願っています。



▲年に3回の「親子で楽しく英会話」


▲大盛況の盆踊り終了後に抽選会


▲地域と連携したPTA行事「親子で防災教室」



▲学校と地域のコラボ企画「笠原パスポート」



▲学校の盆踊り練習で地域の方が受付を担当


▲外国人講師と英語を使って「国際交流の日」

『笠原大好き!』
～地域の中で育つ笠原っ子～



岐阜市立徹明さくら小学校は、岐阜市立徹明小学校と岐阜市立木之本小学校が統合し、平成二十九年四月に岐阜市立徹明さくら小学校としてスタートした統合三年目の学校です。木之本小学校の歯科保健と徹明小学校の金管鼓笛を教育活動の二本柱として継承し、新しい校風を創り出しています。

校区にはＪＲ岐阜駅や柳ケ瀬があり、にぎやかで活気あふれるすばらしい町です。全校生徒は三〇八名、明るく元気に学校生活を送っています。

歯科保健

給食後は、鏡を見ながらお茶を使って「さくら三周みがき」をしています。みがく時の約束は、足を床につけて、肘を机から離して、軽い力で細かく動かして、仕上げは歯と歯肉の間の横みがきです。一年生から、丁寧な歯みがきが身についています。また、学校歯科医の荒井先生や歯科衛生士さんのご指導のもと、歯や口の健康に関する学習をしています。健康委員会では、八のつく日に、しっかりみがいている人をお昼の放送で紹介しています。他にも染め出しを行ったり、歯に良いメニューを考えたり、保育園に行って歯みがきの大切さを伝えたりと、一年間を通していろいろな活動を行っています。歯や口の健康を通して、生きる力を身につけることができる子を目指しています。



木之本保育園への
歯磨き訪問の様子です。
歯磨きクイズ、わかるかな？





学校歯科医の荒井先生から、
歯についてのお話を聞きます。みんな真剣です。



歯科衛生士さんが一人ひとりに合った
歯磨きの仕方を教えてくれます。



給食後の歯磨きタイム。鏡を持ちながら、
すみずみまで丁寧にブラッシングします。



健康委員会による歯の染め出し
「とてもきれいにみがけているね」



全校みんなで考えた
「歯と口の健康カルタとり大会」
よくかんで　だ液いっぱい　虫歯予防



健康委員が考えた歯によいメニュー
「サーモンのガーリック揚げ　しめじクリームソース」
サクサクでおいしい！



毎年秋に開催される「ぎふ信長まつり」の
音楽隊パレード。
沿道からたくさんの声援をいただきます。



岐阜駅北口駅前広場完成
10周年イベントにて



低・中学年の児童は、
懐かしの丸窓電車を
引っ張ってイベントを
盛り上げました。

EB（Enjoy Band）
金管鼓笛隊

岐阜市立小学校で唯一の金管鼓笛隊は、一九六一年（昭和三十六年）に結成され、今年で五十八年目を迎える歴史ある活動です。「美しさ・力強さ・ハーモニー」を合言葉に、毎年六年生が熱心に練習に取り組んでいます。ＥＢの音が聞こえると、近所の方が練習を見に来られ、「毎年楽しみにしているよ。頑張って！」と励ましの声をかけてくださいます。今年は、学校行事だけでなく、信長まつりパレードや岐阜駅北口駅前広場完成十周年イベントにも参加しました。これからも、地域の宝であるＥＢを大切に引き継いでいきます。



このイベントで、今年度のEB披露は終了。
堂々とした演奏で、有終の美を飾りました。





運動会で、ドキドキのEB初披露！
保護者だけでなく地域の方も
楽しみにしている行事の一つです。

男子卓球部



17名で活動しています。昨年は春の県大会で団体3位に入賞したにもかかわらず、夏は敗れ東海大会に行けませんでした。今年こそ東海大会に行きたいです。そのために、各自課題をもって練習に取り組み、試合中は全員一丸となり応援することを心がけています。目標を達成するため、努力を積み重ね、頑張っていきたいです。

女子卓球部



12名で活動しています。中体連の東海大会出場を目指し、日々練習に取り組んでいます。昨年は地区大会に出場できず、悔しが残りました。そんな悔しさをバネに、毎日の朝練で体幹トレーニングをしたり、台が使える日はフットワーク練習をしたりして、内容にこだわり、日々努力しています。

柔道部



「技術と体力の両方をバランス良く高めることで運動能力そのものを向上させ、柔道の競技力を高める」ということを意識して練習に取り組んでいます。令和元年度は、11年連続で出場していた全国大会への出場を果たすことができず、すごく悔しい思いをしました。来年は全力を出し切る姿、最後まであきらめない姿で練習や試合に取り組み、個人戦でも団体戦でも最高の結果を残したいです。

水泳部



2年生14人、1年生14人で活動しています。大会シーズンの夏は、中体連で自分の目標を達成するために、真っ黒に日焼けするくらい練習に励んでいます。屋外活動ができない冬は地域のスポーツクラブの屋内プールを借りて練習しています。来年の中体連では、それぞれの目標タイムを目指し、一人でも多く県大会に出場できるようにがんばります。

ソフトボール部



夏のブロック大会、地区大会で勝利をおさめるために、土日のクラブだけでなく、朝練も全員参加を目指して取り組んでいます。地域の人や保護者の方など、私たちを支えてくださっている方々に感謝し、まだまだ実力不足ですが、県大会、全国大会を目標におき、努力を続けていきます。

合唱部



夏のNHKコンクールや秋の合唱祭に向けて日々練習に励んでいます。学年の垣根を越えて仲良く活動をしていますが、練習時には、発声練習に徹底的にこだわり、できるまで妥協せず何度も練習を行っています。今年のNHKコンクールでは、目標に届かず悔しい思いもしましたが、頑張ってきた仲間と最後までやり切れたことが、なによりも心に残りました。これからも「心に響く合唱」を目標に練習に励んでいきたいと思います。

男子ハンドボール部



中体連に向けて日々練習に励んでいます。試合で声を出すために挨拶を大きな声でることを心がけています。プレーで上手くいかないことは解決できるように話し合っています。今年は地区大会準優勝となり、県大会に出場できました。来年の中体連に向け、それぞれの課題を克服できるように努力していきます。

女子ハンドボール部



県大会出場を目標に日々練習に励んでいます。週に4回練習がありますが、明るく楽しく真剣に取り組んでいます。県大会に出場するために試合で負けたときは、どこがいけなかったのかを話し合い、次に繋げていく課題をはっきりさせ、チーム全体で上を目指し努力していきます。

パソコン部



パソコン入力を磨くために、タイピング練習を行ったり、諸活動のポスターを作成したりする活動を行っています。また、毎日パソコン入力コンクールでよい成績を残そうとチャレンジする生徒もいます。

美術部



公募展に挑戦することを中心に活動しています。これまでも、人権ポスターや風景画コンクール、イラストコンクールなど、様々なジャンルに応募し、入賞もしてきました。今後は、共同作品の制作や、美術館や大学のワークショップへの参加など、活動の幅を広げていければと思います。

英会話部



ゲーム、料理、絵本朗読など様々な活動を通して、英語を身につけています。活動に入ったら、All Englishで日本語を使えない環境に置くことで、英会話力の向上を目指しています。本年度は羽島市を英語で紹介するプロモーションビデオを作成し、コンテストに応募をします。

サッカー部



3本柱として「チームワーク～仲間を大切にする～」「ハードワーク～苦しい時も最後まであきらめない～」「ブレインワーク～自分で考え行動する～」を掲げて、一生懸命に励んでいます。現在は羽島中央中・笠松中の三校合同チームで活動しています。自分たちで毎月サッカー通信を作成したり、試合後の反省会をしたりして、チームの向上を目指しています。

男子バレーボール部



2年生5名、1年生2名の合計7名で活動しています。様々な方のおかげでバレーボールができる環境にあることに感謝し、日々の生活もバレーボールの練習も一生懸命に取り組んでいます。人数は少ないですが、チームワークもよく、一人ひとりがたくさんボールに触れ、練習ができます。県大会で勝つことを目標に今後も全員で頑張ります。

女子バレーボール部



2年生5名、1年生11名の合計16名で活動しています。目標は、羽島市内1位、羽島ブロック3位です。目標を達成するために、生活面では「誰にでも大きい声であいさつをすること」、技術面では「一人ひとりが課題を意識し、精一杯練習に励むこと」を大切にして日々練習に励んでいます。

陸上部



短距離は春に向けての冬期練習、長距離では、春の大会や駅伝の全国大会に向けて練習に励んでいます。苦しい練習をともに乗り越えたり、大会中の応援に励んだりするなど、チーム一丸となって取り組んでいます。また、会場のごみ拾い、あいさつなども大切にしています。そうやって「心のフォーム」を整え、その土台の上で技術を磨き上げていきます。

男子バスケットボール部



2年生11名、1年生13名の合計24名で活動しています。一つ一つの練習の意味を理解することを意識し、言われたことを練習するだけでなく、何が大切なのかをみんなで話し合いながら活動を進めています。また、コーチ、先生、家族など支えてくださる方々への感謝を忘れず練習に励んでいます。

女子バスケットボール部



「我夢者羅～夢に向かって突っ走れ～」を合言葉に、日々の練習に励んでいます。勝つために、20m先の人にも聞こえる声であいさつするなど、「礼儀」を大切にし、当たり前のことは当たり前にできるようにしています。一人ひとりが課題と向き合い、志をもって困難に立ち向かいます。

野球部



2年生8名、1年生6名で活動しています。技術面だけでなく、挨拶や礼儀等の行動面も大切にしています。目標は全国大会出場です。先日行われた大会では、優勝し、大きな一歩を踏み出しました。この経験を胸に、一つ一つの行動や練習を大切にし、目標を果たせるようにしたいです。また、個々の実力を伸ばし、家族や監督、コーチ、先生、全員で最後まで戦い抜きたいです。

男子ソフトテニス部



中体連に向けて毎日練習に励んでいます。特に、2年生は最後の大会なのでブロック大会優勝旗奪還を目指して頑張っています。僕たちのモットーは「握手・挨拶・感謝」と「お世話になっている人への敬意」です。また、1年生を2年生と一緒に練習させることによって全員が上達するように工夫して練習しています。

女子ソフトテニス部



35人で、中体連ブロック大会連覇を目標にして日々練習をしています。目標達成のため、テニス部では声を出して練習することを一番に心がけています。最初の頃は、練習中ほとんど声を出すことができていませんでした。しかし、ミーティングを通して、最近では声を出せるようになり、練習にも活気が出てきました。目標の達成や自身の技術の向上のため、部員全員で声を出して練習に取り組んでいきます。

私たちのPTA

大垣市立時小学校PTA



キャンプファイヤーの出し物



協力してカレー作りをする
お母さんたち



キャンプファイヤー後の記念撮影



手作りカレーを楽しみに待つ
子どもたち





子どもたちの川遊びの安全を
見守るお父さんたち



校長先生の色水マジック



傘袋ロケットづくり



楽しい水遊び

はじめに

時小学校は、四季折々の見事な景色が広がる烏帽子岳、清らかな水が流れる牧田川、豊かな自然に恵まれた大垣西南端にある児童数三十七名、ＰＴＡ会員数三十八名（保護者三十名、教職員八名）の小規模校です。令和元年度のスローガンは「健全な家庭づくりと心豊かなたくましい子どもの成長」です。少人数であることもあり、親同士の関わりが深く共に子どもたちを温かく見守りながら活動を進めています。

保護者・学校・地域と連携したＰＴＡ活動

①教職員と共に進めるデイキャンプの計画

夏休みに行うデイキャンプは、子どもたちが楽しみにしている活動です。ＰＴＡ役員会で本部役員と教職員が活動内容を話し合い、本部役員が中心となり準備を進めました。今年度は、川遊び、サイエンス教室、キャンプファイヤーを計画しました。サイエンス教室は校長先生にお願いして色水実験や空気砲づくりを行っていただきました。

②父親が安全を保証する川遊び

安全を第一に考え、流れの緩急や水量・危険な場所のチェック等、場所の選定を事前に行いました。暑さ対策としてテントも張りました。子どもたちが遊んでいる時は、少し深い所や下流に役員を配置し、危険がないよう安全に楽しむことができるよう配慮したことで、子どもたちにとってよい体験ができたと思います。

③母親が主体となった夕食づくり

校長先生にサイエンス教室をお願いしている間に母親代表を中心にして、カレーライスづくりに取り組みました。事前にＰＴＡ会員に補助を要請すると二十一名協力いただけ、五グループに役割を分担し進めたことで、予定時刻までに作り終えることができました。

子どもたちや保護者、また協力していただく消防団員の方々が美味しそうに食べてくださり、作りがいがありました。普段、交流することがない異学年の保護者との交流もでき、暑い中でしたが、楽しい時間となりました。

④地域消防団に協力を願ったキャンプファイヤー

デイキャンプの最後のメインイベントであるキャンプファイヤーにむけて、地域の方から廃材を提供していただき、夕食を摂っている間に役員を中心にチェーンソーで木材の長さをそろえて組み上げました。消防団の方々に数回に分けて水をまいてもらい、燃え広がらないように警備をお願いしました。子どもたちとダンスをしたり、ゲームに参加したりすることができ楽しいひとときとなりました。

おわりに

地域の特色を生かした活動は、地域のよさを子どもたちに再認識させることとなり、親子の絆、保護者同士の絆も深まりました。子どもの健やかな成長を願い、今後も保護者・学校・地域が力を合わせ、工夫した活動、取組を進めていきます。

がんばる子らの

汗と笑顔と眼差しと

各務原市立川島中学校



防災を考える修学旅行

3年生は、神戸・大阪の修学旅行を通して、防災について学び、班の仲間との絆を深めています。



集団力を高める宿泊研修

2年生は、国立若狭湾青少年自然の家を拠点として、海の活動で学級の力を強め、企業訪問を行って職業意識を高めています。



仲間とともに高まる宿泊研修

1年生は、16キロの道のりを班の仲間と協力して歩きながら、各務原の歴史と産業について学んでいます。



DIG（災害図上訓練）

1年生では、川島地区の住宅地図を使って、「防災マップ」を作成し、緊急時の避難について考えています。



学び合う学習

「みんなが分かる、みんなができる」授業をめざして、対話的に学び合う学習活動を行っています。



全校合唱「だいじなものは」

川島中学校オリジナル全校合唱曲「だいじなものは」を歌い継いでいます。12月の合唱祭と卒業式に披露しています。